

令和5年度 第3回「第6地区教科用図書採択教育委員会協議会」記録

期日：令和5年7月18日（火）9:30～

場所：士別市庁舎 3階 議場

出席者：上川管内市町村教育長（旭川市を除く）

事務局：士別市教育委員会

1 議題

○ 各種目報告と採択

令和6年度使用小学校用教科用図書

- ・国語 ・書写 ・社会 ・地図 ・算数 ・理科 ・生活 ・音楽 ・図画工作
- ・家庭 ・保健 ・道徳 ・外国語 ・特別支援

2 記録

事務局 ただいまから、第3回第6地区教科用図書採択教育委員会協議会を開催する。

開催にあたり、協議会会長からご挨拶を申し上げます。

会長 教科用図書は子どもたちの学びの基礎となる重要なものである。

今日の会議ではみなさんとともに教科用図書の制定について意見交換を行う。

上川管内の子どもたちのためによりよい教科用図書を選定できるよう、多くの意見をいただきたい。

事務局 この後の議事は、会長に進行願う。

会長 協議会規約第4条第3項の規定により、委員定数22名中全員が出席しているので、直ちに会議を始める。

はじめに、事務局から経過報告願う。

事務局 これまでの経過を報告させていただきます。

6月5日に開催した第2回教科用図書採択教育委員会協議会において、教科用図書調査委員をご確認いただき、その後の進め方やスケジュールをご確認いただいた。

6月26日には59名の調査委員の出席のもと、第1回教科用図書調査委員会を士別市民文化センターで開催し、調査研究の要領、観点、報告書の作成等について確認した。

調査委員の方々には、その日から自宅において各種目の調査研究をしていただき、7月3日と4日には、同会場で開催した第2回教科用図書調査委員会において意見交換を重ねたうえで、小委員会ごとに「報告書」を作成していただいた。

この報告書につきましては、皆さんのお手元に7月11日付けで郵送させていただいた。

また、各市町村教育委員会において期間を設定し、実施していただいた、教科書展示会では、2,079人の閲覧があり、12件の意見の提出を受けた。

本日は、種目ごとに教科用図書を採択していただくので、よろしく願います。

会長 それでは、令和6年度から使用する小学校用教科用図書の採択を行う。

事務局から説明願う。

事務局 この後、種目ごとに教科用図書を採択していただきますので、よろしく願います。

議事を進めるにあたり、参考とする資料について確認する。一つは北海道教育委員会から送付されている「令和6年度から使用する小学校用教科用図書採択参考資料」。二つは「令和6年度から使用する小学校用図書に関する調査研究報告書」。三つは各社の「教科用図書の趣意書」及び教科用図書の見本である。既に、各委員は、これらにお目通しいただいているものと考えている。

会長 はじめに、国語科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 国語科小委員長の松川である。国語科の調査結果について、報告申し上げる。

● はじめに、「東京書籍」について報告する。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、全学年共通して「言葉の力」や「学習の流れ」で学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、考えを広げたり深めたりする活動を組み入れている。例えば、第4学年の「人物の気持ちの変化を伝え合おう」の単元「ごんぎつね」で、「起こった出来事を確かめる」「人物の気持ちがどのように変化したか考える」「ごんと兵十の気持ちについて想像したことを伝え合う」などの学習活動が工夫されている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第4学年で「しらしらと氷かがやき千鳥なく釧路の海の冬の月かな」といった石川啄木の短歌が取り上げられている。

● 次に、「教育出版」について報告する。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、全学年共通して「学習のてびき」で学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、考えを広げたり深めたりする活動を組み入れている。例えば、第4学年の「登場人物の気持ちの変化を考えて、日記を書こう」の単元「ごんぎつね」で、「もしもごんが日記を書いていたとしたら、どのような日記になるか想像して、書いてみましょう」「日記を見せ合って、感想を伝え合いましょう」などの学習活動が工夫されている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第6学年「本を読もう」で「知里幸恵物語アイヌ『物語』を命がけで伝えた人」が、付録で「アイヌ神謡集」について取り上げられている。なお、「教育出版」は第5学年及び第6学年ともに上下の分冊になっている。

● 次に、「光村図書」について報告する。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、

調査研究報告書に記載のとおりである。

- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、全学年共通して「学習」で学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、考えを広げたり深めたりする活動を組み入れている。例えば、第4学年の「気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう」の単元「ごんぎつね」で、「グループで感想を読み合い、新たに考えたことや思ったことを書き加えましょう」などの学習活動が工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第5学年「この本、読もう」で「知里幸恵物語アイヌ『物語』を命がけで伝えた人」が、第6学年付録で「アイヌ語」について取り上げられている。
- 以上で国語科の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答に入る。国語科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：1点目は、子どもたちが問題解決的な学習を自らできるように工夫されている点について、2点目は、2次元コードについて特徴的な点について、説明願う。

A：1点目の問題解決的な学習で工夫している点について、各者の第6学年の教科書において、「東京書籍」では各領域の単元を「見通す」「取り組む」「振り返る」の課題解決的な3ステップの学習過程で構成し、資質・能力を身に付けられるように工夫している。「教育出版」では、課題解決的な学習の手引きの学習活動で、「見通しをもとう」という柱があり、「確かめよう」「くわしく読もう」「まとめよう」「伝え合おう」の4ステップの学習過程が示されている。「光村図書」では、「学習の見通しをもとう」で、「問いをもとう」という投げかけがあり「とらえよう」「深めよう」「まとめよう」「広げよう」の4ステップで学習内容が示されている。

2点目の2次元コードについての特徴的な部分について、各者の第1学年から第6学年までの掲載箇所は、「東京書籍」では、計616か所、「教育出版」では176か所、「光村図書」では、185か所となっている。

Q：ユニバーサルデザインについて、各者の配慮等を説明願う。

A：ユニバーサルデザインについては、各者で、レイアウトや書体などを工夫し配慮している。「東京書籍」では、配色、デザイン、配置、色使いユニバーサルデザインフォントを使用している。「教育出版」では、色覚の個人差を問わないカラーユニバーサルデザイン教科書体、硬筆体、オリジナルフォントを使用している。「光村図書」では、カラーユニバーサルデザイン、色の組合せや色調に配慮し、独自の教科書体を使用している。

Q：1点目は、第1学年のスタートカリキュラムについて、各者どのように配慮されているか、2点目は、幼保小の連携、及び小中の連携についてどのような配慮工夫がなされているか、また、他教科との関わりで特徴的なことについて、説明願う。

A：スタートカリキュラムについて、「東京書籍」では、第1学年の上巻で資質・能力を発揮しながら、さらに伸ばしていけるよう児童の関心や成長への願いに寄り添ったコンパクトな教材を中心に構成している。第1学年の第1教材は、リズムカルで呼び掛け合うような言葉

と児童の想像を膨らませる物語性のあるイラストによって構成され、心と体を使って言葉や音を楽しんできた幼児期の経験を踏まえた接続に配慮している。「教育出版」では、子どものドキドキやワクワクを学びにつなげられるよう、入門期は楽しく親しみやすい紙面にしている。見開きごとに見やすく構成された教材によって子どもが無理なく安心して言葉の学びに向かえるよう工夫している。なお、書写や生活科との連携を意識した教材を配慮している。「光村図書」では、第1学年の上巻・巻頭に、想像が広がる絵物語や対話を重視した楽しい活動など、幼稚園保育所での経験を生かしながら国語学習の基礎を築ける場を設定している。

2点目の小中連携については、「東京書籍」では、第5学年及び第6学年の教科書は、中学校との接続を考慮して1冊としている。小学校で身に付けた資質・能力が中学校でさらに育成されるよう、中学校の教育課程を踏まえて、学習内容を系統化している。また小学校では何をどこまで学んだかを振り返ることができるよう、身に付けた資質・能力を言葉の力として明確化している。第6学年の巻末には、小学校で学習した言葉の力を振り返り、中学校での学びにつなぐことを促すページを設けている。「教育出版」では、中学校での活用の場面に備え、小学校で習得した事柄を児童自らが自覚するために、「ここが大事」のまとめや「学ぶときに使う言葉」で学習した事項と学習用語を提示し、これから何を学ぶのかこれまで何を学んできたかをいつでも確認できるようにしている。第6学年で学んだ漢字が中学校で着実に書けるようになるため、新出漢字を学ぶ段階でできるだけ習熟を図れるよう領域の教材以外の場にも、漢字指導のための教材を設けている。「光村図書」では、第5学年及び第6学年は、中学校と同様1年間の学習を見渡せる学年1冊構成としている。小学校での学びを確かなものにしなが、中学校の学びへと円滑に接続している。

他教科との関わりについて、「東京書籍」では、他教科との効果的、関連的な指導や、家庭や地域との関連を図ることができる教材や題材を積極的に取り上げている。「教育出版」では、振り返りの「ここが大事」のまとめ、「学ぶときに使う言葉」など、他教科での活用にも広げることができるよう工夫されている。「光村図書」では、言語能力や情報活用能力、課題発見解決能力を育み、教科等横断的に資質・能力を伸ばせるよう、話題や題材、学習活動を工夫している。

Q：1点、単元ごとの振り返りの場面やまとめの段階で、学びを広げるような工夫や特徴的なことについて説明願う。

A：学習の振り返り及び自己評価について、「東京書籍」では、「振り返る」を単元ごとに設定し、「自分の思いを伝えるためにどのように工夫して文章を書きましたか。」など、結果だけではなく過程への評価を促すような文言を示している。「教育出版」では、単元の最後に、「どのようなところに気を付けましたか」という振り返りの視点を示している。「光村図書」では、単元の最後に、「知る」「読む」「つなぐ」などの観点とともに、「どのように変わりましたか」「どんなことに気を付けましたか」「どんなことを大事にしたいですか」のように具体的に示している。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、国語科の採択の審議に入る。

- ・各者とも、学習の進め方が非常にしっかり示されている。特に「光村図書」は、個別最適な学びと協働的な学びの両方が位置付けられていることが特徴と考える。ただ、見通しの下、子どもに課題意識をもたせる言葉かけは、例えば、「手紙にしよう」だとか「人物の性格を考えながら」とか、非常に具体的な指示が出ており、「教育出版」が優れていると考える。また、学習の手引きの言葉のコーナーで、文法的な知識や考え方をどのように日常生活で使っていくのかということについて、「教育出版」は明確に示されていた。よって、「教育出版」がよいのではないか。
- ・各者、それぞれが特徴のある教科書となっており、学習指導要領の総則、各教科、各学年の目標の内容に基づいて取り上げられた内容であるので、どの教科書も適切とは考えるが、小中連携や、あるいはスタートカリキュラム、そして、他教科との関わりについて、「教育出版」が幼保小中の接続を意識した内容になっていると考える。また、子どもたちの身の回りにある課題を取り上げ、課題に向き合い、主体的に解決する意欲をもたせることについても、「教育出版」がよいのではないか。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、国語科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。（異議なし）

それでは、国語科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、書写について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 書写小委員長の中家である。書写の調査結果について、報告申し上げる。

- 各者の書写の各学年の目標及び内容等に係る「取扱内容」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- はじめに、「東京書籍」についてである。硬筆については、第1学年及び第2学年において、とめ、はね、はらいなどの点画の書き方に気を付けて書いたり、整った文字を書くための書き方を考えたりする活動をとおして、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧を書く活動により、目標達成を目指している。毛筆については、第3学年及び第4学年において、点画それぞれの書き方や筆圧に注意して書いたり、点画の長さや間隔などを考えて書いたりする活動をとおして、毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書く活動により、目標達成を目指している。硬筆と毛筆の関連については、第5学年及び第6学年において、筆順と点画の接し方、用紙に合った文字の大きさなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動をとおして、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動により、目標達成を目指している。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第5学年及び第6学年において、「見つけよう」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、次の文字に向かう動きについて考えたことを話し合ったり、第6学年「書写のかぎ」を参考にして毛筆や鉛筆で文字を書いて確かめたりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
- 内容の構成・排列、使用上の配慮事項については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 次に、「教育出版」についてである。硬筆については、第1学年及び第2学年において、とめ、はね、はらいなどに気を付けて書いたり、どちらの形が整っているかを考えたりする活動をとおして、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書く活動により、目標達成を目指している。毛筆については、第3学年及び第4学年において、「横画」や「縦画」の筆使いに気を付けて書いたり、点画の接し方と間隔を考えて書いたりする活動をとおして、毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書く活動により、目標達成を目指している。硬筆と毛筆の関連については、第5学年及び第6学年において、漢字同士の大きさ、用紙に対する文字の大きさと配列など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動をとおして、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動により、目標達成を目指している。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第5学年及び第6学年において、「めあて」で、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、目的に応じた書く速さについて話し合ったり、第5学年「ここが大切」を参考にしてメモの取り方について確かめたりするなど、考えを広げたり深めたりする活動により、目標達成を目指している。
- 「内容の構成・排列」、「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、「光村図書」についてである。硬筆については、第1学年及び第2学年において、とめ、はね、はらいなどの点画の終わりに気を付けて書いたり、整った文字を書くためのきまりを考えたりする活動をとおして、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書く活動により、目標達成を目指している。毛筆については、第3学年及び第4学年において、「横画」や「縦画」等の筆使いに気を付けて書いたり、部分の組み立て方を考えて書いたりする活動をとおして、毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書く活動により、目標達成を目指している。硬筆と毛筆の関連については、第5学年及び第6学年において、点画のつながりと字形、筆順と点画のつながりなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動をとおして、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動により、目標達成を目指している。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第5学年及び第6学年において、「ねらい」で、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、文字と文字のつながりが感じられる理由を話し合ったり、第6学年「たいせつ」を参考にして点画のつながりを意識して書いたりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列」、「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、「北海道に関わりのある内容」については、「教育出版」では、第2学年「年賀状と書き初め」の題材で、年賀状の宛先として「くしろ市大町九ちょう目八三」の記述、第4学年「敬老の日のはがき」の題材で、「北海道」の記述が取り上げられている。「光村図書」では、第1学年「もじたんけんたい」の題材で「札幌市立星置東小学校」の校門の写真が、第5学年「めざせ新聞記者」の題材で「イランカラプテ新聞」が資料として、第6学年「通信文を見てみよう」の題材で発表用資料の中に大通公園の雪まつりが取り上げられている。「東京書籍」では、

北海道に関わりのある内容については取り上げられていない。

- 以上で書写の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。書写の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：1点目は、スタートカリキュラムについて、第1学年の序盤でどのような工夫や配慮がされているか、2点目は、国語科との関連をどのように図っているかについて、説明願う。

A：スタートカリキュラムについて、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」の数量図形、文字等への関心・感覚等を踏まえ、各者とも、第1学年の導入の部分については、小学校入学前の能力の差にも配慮しながら、文字ではなく形として、筆の動かし方あるいは○を書くなどの形で導入を図り、その後、「自分の名前を書く」であるとか、身の回りの文字への関心をもたせるという配列になっている。

2点目の国語科との関連については、お手本となるような題材、物語文で、国語の教科書と関連付けて取り扱われているところが多くある。

Q：1点目は、2次元コードの取扱いの状況について、2点目は、学習の振り返りについて各者の工夫や特色を説明願う。

A：1点目の2次元コードの状況については、各者とも掲載されており、第1学年では、「東京書籍」は18か所、「教育出版」は15か所、「光村図書」は25か所掲載されている。各学年ともにそれぞれの題材で、写真であったり、動画であったり、特に毛筆の題材では動画が多く用意されている。

2点目の振り返りについては、各者ともにそれぞれの題材ごとに学習を振り返る項目を設定している。「東京書籍」では、振り返りの項目ごとによくできていれば○を記入する自己評価を記入する欄を設けている。「教育出版」では、振り返りの項目ごとに自己評価を◎○△で記入する欄を設けている。「光村図書」では、振り返りの項目が達成できていればチェックを記入する欄を設けている。

Q：子どもたちの多様性への配慮について説明願う。

A：多様性への配慮については、鉛筆の持ち方や書写の道具を置く場所等について、写真等で説明するなど左利きの児童への配慮が見られる。

併せて、SDGsを意識した構成について、「光村図書」の第4学年では、SDGsブックという別冊資料がある。毛筆の題材について、例えば「平和」「平等」「豊かな海」といったSDGsに意識を向けさせられるような題材が配列されている。「光村図書」や「教育出版」では、外国人児童に対する配慮として、例えば、写真資料では、毛筆で書いている子どもが外国人であるなど、国際化について配慮されている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、書写の採択の審議に入る。

- ・各者とも子どもたちの日常生活とつながる部分を題材に、重点的に取り上げていると考える。スタートカリキュラムについても、第1学年の書写の学習について工夫されていると考える。今日的な教育課題についても、各者ともそれぞれ工夫されているが、国語との関連や連動を考えた場合、「教育出版」がよいのではないかと考える。

- ・多様性について、どのような文字を書くかというのは、視覚から理解する子どもと、聴覚から理解する子どもがいると考えられる。「光村図書」では、「すうっときてピタ」など、言葉で促している。「教育出版」では、紙面右側に手本があり、左側にどのように書くかといった支援が書かれており、まず右側のページでしっかり目で捉えてどういった文字を書きたいのかをイメージする紙面構成が優れていると考える。よって、「教育出版」がよいのではないか。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、書写については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、書写については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、社会科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 社会科小委員長の森である。社会科の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、各見開きに「主体的・対話的で深い学び」につながる学習活動を「まなびのポイント」として例示し、実際の授業展開に活用できるように配慮されている。具体的には、話合いの場面について適所にイラストで示したり、まとめる場面では学習してきたことを振り返った上で学習問題を解決する過程を分かりやすく示したりしている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、上川地方に応じた内容として、第5学年「わたしたちの国土」の単元で、アイヌ語地名で「士別（シベツ）」が取り上げられている。また、「わたしたちの生活と食料生産」の単元では、東神楽町の田植えの写真が掲載されている。
- 次に、「教育出版」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「主体的に楽しく学べる教科書」「調べたり考えたりする力がつく教科書」に配慮されている。具体的には、豊富な資料やデジタルコンテンツが関心・意欲を高めたり、小単元・単位時間ごとに問題解決的な学習の展開を促せるようになったり、見開きページごとインデックスを設け見通しがもてるようにしたり、まとめる・つなげる場面では多様な対話的な活動例が紹介されたりしている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、上川地方に応じた内容として、第5学年「日本の国土とわたしたちの暮らし」の単元で、旭川市が取り上げられている。また、美瑛町の小麦畑、中富良野町のラベンダー畑、富良野市のでんさいの収穫、南富良野町のじゃがいもの収穫の写真が掲載されている。
- 次に、「日本文教出版」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、どの子どもも見通しをもって主体的に学んだり、交流場面を随所に設定し、対話的で深い学びを行ったり、問題解決的な学習の過程を分かりやすく示したりすることに配慮されている。具体的には、学習問題について予想し、学習の計画を立てる場面を設定したり、追究の中で個が集団と関わりながら問題を解決する具体的な場面を効果的に設定したりしている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、上川地方に応じた内容として、第4学年「地域の伝統や文化と先人のはたらき」の単元で、昔の旭川市の写真が掲載されており、第5学年「日本の国土と人々の暮らし」の単元では、旭川市の冬の温度計の写真、スキー学習の写真が掲載されている。
- 以上で社会科の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。社会科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：1点目は、各教科との関連について、その有無と、各者の取り上げ方や表記の仕方の違いについて、2点目は、多文化共生の観点に基づいて、外国籍あるいはアイヌ民族の方々の取り上げ方について、各者の特色を説明願う。

A：1つ目の各教科との関連付けについては、「東京書籍」では、他教科の学習内容と関連する箇所は教科関連マークと学習内容を関連するページの欄外に示し、関連を図るようにしている。「教育出版」では、社会科と他の教科等の学習連携を示した、他の教科などとの関わりが巻頭に掲載され、横断的に学習を進めることを意識した内容となっている。「日本文教出版」では、「未来につなげる私たちのSDGs」で、総合的な学習への関連付けとなるような学習内容を掲載するなど、新しい教育課題に対応したSDGs関連教材も多く掲載されている。2点目の他文化共生の観点からのアイヌ民族の取り上げ方については、各者ともアイヌ民族について取り上げている。「東京書籍」では、第5学年で11か所、第6学年で10か所取り上げ、内容はアイヌ文化、アイヌ語、アイヌの暮らし、アイヌの歴史に関わることである。「教育出版」では、第5学年で9か所、第6学年で16か所取り上げ、内容はアイヌ文化、アイヌの暮らし、アイヌの交易、アイヌ語、アイヌの歴史についてである。「日本文教出版」では、第6学年で8か所取り上げ、内容はアイヌの暮らしについてである。

Q：1点目は、ユニバーサルデザインについて各者はどのような工夫をしているか、2点目は、社会科の総ページ数は適当なのか説明願う。

A：1点目のユニバーサルデザインについては、「東京書籍」では、本文と資料をはっきり区別できるようなレイアウトになっている。本時のめあて、学習問題も目立つようになっている。色調の違い、模様や形などでも図表などを判別できるよう配慮されている。教科書の一部にユニバーサルデザインフォントを使用している。「教育出版」では、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。本文にはユニバーサルデザインフォントを使用している。感覚的に見やすく、読みやすいデザインに配慮されている。「日本文教出版」では、カラーユニバーサルデザインで配慮し、色覚の違いを問わず、多くの子どもに見やすくなるよう配慮されている。本文にはユニバーサルデザインフォントを使用している。

2点目の総ページ数については、「東京書籍」では、第3学年は140ページ、第4学年は168

ページで、学年1冊の構成、第5学年は上124ページ、下128ページ、第6学年は政治国際編が112ページ、歴史編が160ページで、分冊構成となっている。「教育出版」では、第3学年は176ページ、第4学年は216ページ、第5学年は260ページ、第6学年は296ページで、それぞれ学年1冊の構成となっている。「日本文教出版」では、第3学年は166ページ、第4学年は212ページ、第5学年は288ページ、第6学年は282ページで、学年1冊の構成となっている。

Q：1点目は、生活科から社会科へと移行していく第3学年の教科書で各者の特徴について、2点目は、白黒写真をカラー化するなど、写真の取扱いについて、調査委員会で何か話題が出たのか、説明願う。

A：1点目の第3学年の内容については、「東京書籍」では、生活科で学んだことを振り返り、第3学年の内容を提示することで、これから始まる社会科学習に意欲をもって取り組んでいけるようにしている。「教育出版」では、生活科の代表的な学習場面を想起するページを設け、社会科へのスムーズな接続を図り、関心や意欲を高めることができるようにしている。「日本文教出版」では、生活科との接続に配慮し、学校周辺から市に広げてる最初の単元で、体験活動を基としている。

2点目については、白黒写真がカラー化されることで、よりリアルに分かる状態の写真が掲載されているという話題が出されていた。

Q：副読本との併用に係り、地域の実態に応じて取り扱う内容の選択について、各者どのような工夫をしているか、説明願う。

A：副読本を活用する第3学年及び第4学年の地域の実情に応じた選択単元の取扱いについては、「東京書籍」では、第3学年「はたらく人と私たちの暮らし」の単元で「農家の仕事」または「工場の仕事」で選択できるようになっており、第4学年「特色ある地域と人々の暮らし」の単元では、「美しい景観を生かすまち」または「古いまちなみをいかす町」で選択できるようになっている。「教育出版」では、第3学年「はたらく人と私たちの暮らし」の単元で「工場ではたらく人と仕事」または「農家の仕事」で選択できるようになっている。第4学年では、3つの選択単元があり、「健康な暮らしとまちづくり」の単元では、「水はどこから」または「暮らしと電気」で選択できるようになっている。「自然災害に備えるまちづくり」の単元では「地震に備えるまちづくり」または「水害に備えるまちづくり」で選択できるようになっている。私たちの県のまちづくりでは「昔のよさを未来に伝えるまちづくり」または「自然を生かした街づくり」で選択できるようになっている。「日本文教出版」では、第3学年の「私たちの暮らしと街ではたらく人々」では「工場ではたらく人々の仕事」または「畑ではたらく人々の仕事」で選択できるようになっている。第4学年の「自然災害から命を守る」では「地震による災害」または「津波による災害」で選択できるようになっている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、社会科の採択の審議に入る。

・「東京書籍」は、内容を分かりやすくまとめることに優れていると考える。また2次元コード

のデータも発達段階を考慮して適切に配慮されていると考える。「日本文教出版」は、例えば第6学年の1930年代の東南アジアの地政学的な関係については、記述不足かなと考える。「教育出版」は、第3学年の暮らしの例で算数の記述が出てくるなど、他教科連携について考えられていると考える。また、第5学年のアイヌの人の暮らしでは、非常に丁寧な取り上げ方をされていると考える。加えて、第6学年では、東南アジアの植民地、第2次世界大戦時の欧米諸国の地政学的な観点が分かるような表記があるなど、詳しく工夫されているところもありながら全体的に非常分かりやすい。よって、「教育出版」がよいのではないか。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、社会科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、社会科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、地図について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 地図小委員長の大垣である。地図の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。社会科の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。
 - ・「地図帳の使い方」で、方位磁針を用いて身近な方位を調べたり、地図のきまりを使った地図づくりに取り組んだりする活動
 - ・「日本の全図」で、日本の東西南北端を調べたり、都市と都市との間の距離を調べたりする活動
 - ・「日本の地方図」で、本州から九州へ渡る交通路を調べたり、北陸地方の伝統工芸を読み取ったりする活動
 - ・「世界の地図」で、世界で一番高い所と深い所を調べたり、北極海を囲んでいる全ての国を調べたりする活動
 - ・「資料・統計」で、日本の最大の貿易相手国を読み取ったり、太平洋ベルトにみられる工業地帯や工業地域が海に面している理由を考えたりする活動
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、日本列島全体の災害地図を掲載し、災害の起きる要因や防災対策について考察したり、日本と世界の歴史地図を掲載し、同時代の世界の様子を参照しながら学びを深めたりする活動がある。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道(上川)の地域の状況等に応じた内容としては、北海道地方図で、上川管内の特産品として、アスパラガス、もち米、羊、かぼちゃ、そば、ラベンダー、メロン、玉ねぎ、にんじん、他に旭川空港、動物園マークが掲載されている。日本の自然(地形)では、山の高さで大雪山(旭岳)、川の長さで石狩川、天塩川が取り上げられている。日本の自然(気候)では、最低気温 -41.0°C (旭川)の記録が掲載されている。
- 次に、「帝国書院」についてである。社会科の目標を達成することができるよう、次のよう

な学習活動が取り上げられている。

- ・「地図帳の使い方」で、縮尺を用いて実際の距離を調べたり、方位や地図記号などを用いた宝探しに取り組んだりする活動
 - ・「日本の全図」で、富士山がある県を調べたり、東北地方の大きな祭りや伝統行事を調べたりする活動
 - ・「日本の地方図」で、中国地方で一番高い山の高さを調べたり、沖縄島で栽培されている果物を読み取ったりする活動
 - ・「世界の地図」で、本初子午線上に都市記号がある国を調べたり、オーストラリアでたくさん採れる原料、品を調べたりする活動
 - ・「資料・統計」で、日本が世界各地に輸出しているものを読み取ったり、田が広がっているところの地形の特徴を考えたりする活動
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「防災マップ」の具体的な作り方を掲載し、自らの身を守るために何ができるかを考えたり、比較・関連させて考察できる資料を掲載し、社会的な見方・考え方を働かせたりする活動がある。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、北海道地方図に、上川管内の特産品として、もち米、アスパラガス、大豆、かぼちゃ、そば、トウモロコシ、玉ねぎ、メロン、ニンジン、じゃがいも、木彫りの熊、その他旭川空港、旭山動物園が複数ページに掲載されている。日本の自然のようす（地形）では、山の高さで大雪山（旭岳）、十勝岳、川の長さで石狩川、天塩川が取り上げられている。日本の自然のようす（気候）では、最低気温 -41.0°C （旭川）の記録が掲載されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 以上で地図の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。地図の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：1点目は、地図帳というのは小学校第3学年から第6学年まで4年間使用すると思うが、4年間使用するにあたり、各者どのような配慮がなされているか、2点目は、4年間使うにあたり、丈夫さという観点から、製本のつくりについて、調査委員会で意見が出たのかについて、説明願う。

A：学びの段階や学年段階の構成については、「東京書籍」では、冒頭に第3学年から使用できるイラストが入った世界地図・日本地図があり、第3学年から第6学年までの様々な場面で活用できるようになっている。また、第3学年からの使用を踏まえ、地図の仕組みを分かりやすく解説した学習ページが用意されている。「帝国書院」では、第3学年でも読み取りやすく、第4学年以上向けでは、詳しい地図と、学年ごとに使い分けができる工夫をしている。地図を初めて学ぶ第3学年が親しみをもって地図学習を進められるような巻頭ページを設

定している。また、地図中に歴史的な事項の舞台が掲載されている。

製本のつくりについては、調査委員会では調査しておらず、触ってみた感じでは、「帝国書院」は少し厚く感じ、実際のページ数も多いとの意見があった。

Q：地図帳の厚さに違いがあるということだが、重さや厚さに配慮が必要になりつつも、内容的に、学ぶ際の利点があるか、また、逆に重さを考えたときにデメリットが生じてしまうのかについて説明願う。

A：ページ数については、「東京書籍」では、総ページ数が102ページである。「帝国書院」では、総ページ数が132ページである。

「帝国書院」では、日本の地方図も付いており、第3学年に該当するような、余計な情報を載せず、シンプルな地図と、第4学年以上が使用する細かい内容が入った地図がある。「東京書籍」では、一つ一つの地図の中に非常に多い情報が入っている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、地図の採択の審議に入る。

・「帝国書院」は、学びの段階や発達の段階を考慮した構成であり、資料や表も分かりやすくまとめられていると考える。よって、「帝国書院」がよいのではないかと考える。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、地図については、「帝国書院」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、地図については、「帝国書院」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、算数科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 算数科小委員長の藤原である。算数科の調査結果について、報告申し上げる。

● はじめに、「東京書籍」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等を踏まえ、5つの領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」各学年で目標を達成できる内容が適切に位置付けられており、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、全ての学年において、学習活動が適切に位置付けられており、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「内容の構成・排列」については、系統的・発展的に学習できるように工夫されており、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「使用上の配慮事項」については、児童の学習意欲を高めることができるよう「つないでいこう算数の目」や「算数マイノートを学習に生かそう」で、次に学習してみたいことを想起する子どもの姿を例示したり、コラム「ますりん通信」で、算数の学習に関連する多方面からの話題や見方・考え方などを取り上げたりするなどの工夫がなされている。児童が主体的に学習に取り組むことができるよう、吹き出しでよりよく問題解決しようとする児童の姿や発展的に学習しようとする児童の姿を例示したり、日常生活と学習場面を関連付け、学習することの意義、学習内容の有用性を実感できるようにしたりするなどの工夫がなされている。さらに1人1台端末を活用した学習活動として、2次元コードを掲載し、自動正誤判定や結果の記録機能

で、個別最適化された学びを支援できるようにするなどの、使用上の便宜が図られている。

- 「その他」については、報告書に記載のとおりである。
- 次に「大日本図書」についてである。各教科、各学年の目標及び内容等の取扱いについては調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、全ての学年において、学習活動が適切に位置付けられており、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「内容の構成・排列」については全ての学年において系統的発展的に学習できるように工夫されており、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「使用上の配慮事項」については、児童の学習意欲を高めることができるよう単元の導入コーナーで児童自身が問題を見出す題材を扱ったり、「フクロウ先生のなるほど算数教室」で、算数が社会に生かされていることを実感することができるよう、算数を生かして仕事をされている方へのインタビューが掲載されたりしており工夫がなされている。児童が主体的に学習に取り組むことができるよう巻頭の「算数の学び方」で、問題解決型学習の流れを示すとともに、学習したことを生活に生かそうとする様子や発展的に問題を見いだす様子を掲載したり、単元や毎時の導入で、児童が問題や疑問を見いだせる題材を掲載したりするなど、工夫がなされている。1人1台端末を活用した学習活動として、2次元コードを掲載し、シミュレーションコンテンツで、簡単に何度でも試行錯誤することができるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
- 「その他」については、報告書に記載のとおりである。
- 次に、「学校図書」についてである。各教科、各学年の目標及び内容等の取扱いについては全発行者と同様調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、報告書に記載のとおりである。
- 「内容の構成・排列」については、報告書に記載のとおりである。
- 「使用上の配慮事項」については、児童の学習意欲を高めるために「見方・考え方」を児童が使いたくなるよう「考え方モンスター」として紙面に具現化したり、「算数をつかって」でこれまで学んできた学習内容や解決の仕方を利用してSDGsに関連した題材に取り組むことができるようにしたりするなどの工夫がなされている。また、身の回りの生活の中や、算数の学習の中から問題を発見することができるよう「？を発見」のページを設定したり、次の学びへの関心・意欲が高まり、真理を求める態度を養うことができるよう「つながりの？」を設定したりするなどの工夫がなされている。1人1台端末を活用した学習活動として、2次元コードを掲載し、5つのマークを付け、デジタルコンテンツにどのような内容が含まれているか分かるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
- 「その他」については、報告書に記載のとおりである。
- 「教育出版」についてである。各教科、各学年の目標及び内容等の取扱いについては全発行者と同様調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、報告書に記載のとおりである。

- 「内容の構成・排列」については、報告書に記載のとおりである。
- 「使用上の配慮事項」については、児童の学習意欲を高めるために身近な題材から算数の問題を発見するなど、学ぶ意義を感じ、目的意識をもって取り組める教材や活動を示す「きっかけの問題」を掲載したページを設けたり、各単元の終わりに、学習したことを使って取り組む活動を示すページを設けたりするなど、工夫がなされている。単元の導入で、身近な題材から算数の問題を発見し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるようにしたり、単元末で、学習したことを日常場面に活用し、「何ができるようになったか」を実感できるようにしたりする工夫がなされている。1人1台端末を活用した学習活動として、2次元コードを掲載し、毎時の知識・技能のまとめをアニメーションにして、視覚的にも理解が深められるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
- 「その他」については、報告書に記載のとおりである。
- 次に「啓林館」についてである。各教科、各学年の目標及び内容等の取扱いについては全発行者と同様調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、報告書に記載のとおりである。
- 「内容の構成・排列」については、報告書に記載のとおりである。
- 「使用上の配慮事項」については、児童の学習意欲を高めるために「学びをいかそう」で算数を学ぶ意義を感じられる題材を取り扱ったり、「わくわくSDGs」でエネルギーの利用など社会における答えが1つに定まらない問いに対して算数を使って取り組み、自分たちに何ができるかを考えたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。児童から「めあて」が引き出せるよう、児童の問いや気付きを「めばえ」として掲載したり、児童自らが単元全体の学習を振り返り、生かしていけるよう、「たしかめよう・ふりかえろう・やってみよう」を設定したりするなど、工夫がなされている。1人1台端末を活用した学習活動として、2次元コードを掲載し、具体物の操作では時間のかかる創造的な活動も簡単に行えるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
- 「その他」については、報告書に記載のとおりである。
- 次に「日本文教出版」についてである。各教科、各学年の目標及び内容等の取扱いについては、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、報告書に記載のとおりである。
- 「内容の構成・排列」については、報告書に記載のとおりである。
- 「使用上の配慮事項」については、児童の学習意欲を高めるために単元アプローチとして、ストーリー性やビジュアル性のある導入ページを設けて学習の課題を自ら見付けられるようにしたり、「なるほど算数」で算数につながる数学界の偉人や伝統的な和算の紹介などの算数に関する豆知識的なコラムを掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。「算数マイトライ」で理解度、学習の目的に合わせて様々なジャンル・難易度の問題を掲載したり、「使ってみよう」で作業的・体験的な活動や学習したことを実際の場面に活用する活動の充実を図ったりするなどの工夫がなされている。1人1台端末を活用した学習活動

として、2次元コードを掲載し、アニメーションや自分で操作できるコンテンツで理解を深めるようにするなど、使用上の便宜が図られている。

○ 「その他」については報告書に記載のとおりである。

● 以上で算数科の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。算数科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：各者において、北海道や上川に関わりがあるような内容について説明願う。

A：北海道や上川管内に関わりのある内容については、6者全てで取り扱われている。「東京書籍」では16か所、「大日本図書」では4か所、「学校図書」で12か所、「教育出版」で17か所、「啓林館」では18か所、「日本文教出版」では14か所となっている。上川と関わりのある内容について、「東京書籍」では道のりを概数で表す場面として、札幌市から旭川市までの道のりを求める場面が扱われている。「学校図書」では、身の回りの球の形を探す活動で東川町が扱われている。「教育出版」では、第4学年で、直線の交わり方を考える場面の導入で、旭川駅周辺の地図が扱われている。

Q：1点目は、特に「数と計算」の第1学年の数の概念を指導する上で、各者の工夫や特色について、2点目は、学んだことを日常生活でどのように活用していくかについて、3点目は、子どもたちが意欲的、主体的に学ぶための工夫について、説明願う。

A：1点目の第1学年における指導の工夫については、幼稚園等における就学前の遊びや学びに関連付けたスタートカリキュラムを踏まえて、そのまま書き込みができる教科書を編集したり、大判化し、実際にブロックを使った操作活動が、紙面でも再現できるような工夫をしたりしている。大判化、分冊化している教科書については「東京書籍」、「大日本図書」、「啓林館」の3者が大判化、分冊化をしている。

2点目の日常生活の関連については、全者において意識をされており、今、算数科で求められる問題発見、問題解決の過程を重視した指導において、算数の世界と日常の世界をいかに関連付けるのかについて、各者とも日常生活の関連を図った教材が排列されている。単元のはじめでは、生活において具体的な場面を設定して学習をスタートし、単元の終わりでは学習した内容がどう生活に生かされているのかについて、「算数を生かそう」というページを設定している発行者もある。

3点目の意欲的、主体的に学ぶ観点からの教科書づくりについては、子どもの理解度や習得の状況に合わせて学ぶことができるという意味で、2次元コードが全ての発行者で用意されており、それぞれの学習状況に応じて活用することができる。また、問題や課題を解決する途中の考え方を2次元コードで示すなど、子どもが主体的に自分の課題に合わせ、意欲をもって取り組めるような工夫がなされている。

Q：各者の総ページや領域の教材数について説明願う。

A：各者ともに、ページ数については、大幅に増加または減少したということはない。教材については、北海道や上川にちなんだ教材をはじめ、生活に密着し、単元の導入では、日常生活の中にある算数に関連する出来事を教材として取り扱っている。

Q：全国学力・学習状況調査等において、読解力や表現力の育成が課題となっているが、各者の読解力や表現力を育てる工夫について説明願う。

A：子どもの読解力や表現力の育成については、各者ともに、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえ、必要な情報を読み取り、それを自分で解釈して考え、表現するといったような単元構成を取り入れている。「教育出版」では、「学んだことを使おう」「算数を使って考えよう」といった日常場面の問題を出し、必要な情報を読み取り、キャラクターの会話で説明させることをとおして、考えを広げたり、深めたりするような紙面構成をしている。「大日本図書」では、「読み取る力をのばそう」というコラム的なページを設定して、全国学力・学習状況調査から見られる課題に対応した紙面構成になっている。表現力の育成については、算数科においては「見方、考え方」を生かして考える力を伸ばしていくことが大切であるが、各者において、「見方・考え方」を使う場面でキャラクターが吹き出しで示すなど、「教科書の使い方」として記載をしたり、算数で使う「見方・考え方」を特集したりしている発行者もある。

会 長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、算数科の採択の審議に入る。

- ・各者とも工夫されているが、子どもたちが主体的、意欲的に学ぶ工夫について、特に「教育出版」は、目的意識をもって取り組める教材や活動を示すきっかけづくりのページを設定したり、単元末で学習したことを日常場面に活用し、何ができるようになったのかを実感できるようにしたりする工夫があると考え。よって、「教育出版」がよいのではないかと。
- ・算数の教科の目的として、日常的な生活の中で物事を算数的に理解することと、算数的、数学的な表現を用いて、いろいろな事柄を的確に表現していく力を育成することがあると考え。これらは読解力にもつながっていると考えられ、読解力は、情報をどう処理して表していくのかということと言えると考える。そのため、算数で学んだことを日常生活、あるいは学習にどう活用するかが大切であり、前回の教科書採択でも議論したところである。よって、前回の教科書採択の議論も踏まえ、「教育出版」がよいのではないかと。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、算数科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、算数科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、理科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 理科小委員長の堀内である。理科の調査結果について、報告申し上げます。

- はじめに、「東京書籍」についてである。「各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、「物質・エネルギー」と「生命・地球」の内容区分で調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「問題をつかむ」、「調べる」、「まとめる」、「広げる」、「振り返る」の学習過程をとおして、理科の見方・考え方を働かせて、主体的に問題解決の過程を進められるよう工夫されている。具体的な単元等については、様式2に記載している。
- 「使用上の配慮等」については、「てこのはたらき」の単元の導入において、棒を使って重

い物を持ち上げるなどの学習内容に係る活動を位置付けたり、「理科の世界」において、働く人のインタビュー形式のコラムを掲載し、理科を学ぶ意義を実感できるようにしたり（全学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。また、問題解決の過程を線でつなぎ学習の流れに見通しをもたせたり、単元末において、学習前後での自分の成長を実感できるように振り返りを掲載したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。

- 「内容の構成・排列、分量等」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として、第6学年の「物の燃え方と空気」の単元における下川町のアイスキャンドル等、全37か所で取り上げられている。
- 次に、「大日本図書」についてである。「各学年の『取扱内容』」については、「物質・エネルギー」と「生命・地球」の内容区分で調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」の学習過程を通し、理科の見方・考え方を働かせて、主体的に問題解決の過程を進められるよう工夫されている。各学年の具体的な単元等については、調査報告書に記載のとおりである。
- 「使用上の配慮等」については、「人や他の動物の体のつくりと働き」という単元で、その導入時に徒競走をした後の様子などの日常生活と関連付けた写真を掲載したり、全ての学年において「りかのたまてばこ」のコーナーを設け、科学技術との関連を取り上げ、理科を学ぶ意義を実感できるようにしたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。また、問題解決の過程を「見つける」「調べる」「伝える」からさらに8段階で示し学習の流れに見通しをもたせたり、単元末で、できるようになったことなどの振り返りの視点を掲載したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。
- 「内容の構成・排列、分量等」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として、第5学年の「天気と気温」の単元における旭川市の天気の写真が掲載されるなど、全4か所で取り上げられている。
- 次に、「学校図書」についてである。「各学年の『取扱内容』」については、「物質・エネルギー」と「生命・地球」の内容区分で調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「みえる」、「つながる」、「ひろがる」の学習過程をとおして、理科の見方・考え方を働かせて、主体的に問題解決の過程を進められるよう工夫されている。各学年についての具体的な単元等については、記載のとおりである。
- 「使用上の配慮等」については、第6学年の「電気と私たちの生活」という単元で、その導入時に冷蔵庫を使用している様子などの日常生活と関連付けた写真を掲載したり、「もっと知りたい」コーナーを設け、暮らしや仕事との関連を取り上げ、理科を学ぶ意義を実感できるようにしたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。また、問題解決の過程をチェックして学習の流れに見通しをもたせたり、単元末で、学習前後の変容を確かめるよう振り返りの視点を掲載したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。

- 「内容の構成・排列、分量等」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として、第6学年の「大地のつくりと変化」の單元における有珠山の噴火とハザードマップが掲載されるなど、全12か所で取り上げられている。
- 次に、「教育出版」についてである。「各学年の『取扱内容』」については、「物質・エネルギー」と「生命・地球」の内容区分で調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「見つけよう」、「予想しよう」、「計画しよう」、「結果から考えよう」の学習過程をとおして、理科の見方・考え方を働かせて、主体的に問題解決の過程を進められるよう工夫されている。各学年についての具体的な学習内容については、様式2に記載のとおりである。
- 「使用上の配慮等」については、第6学年の「水溶液」という単元で、洗剤や虫刺されの薬の成分などの日常生活と関連付けた写真を掲載したり、全ての学年において「科学のまど」で、学んだことと関連した身の回りの話題を紹介し、理科を学ぶ意義を実感できるようにしたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。また、教科書に、問題解決の過程を線をつなぎ学習の流れに見通しをもたせたり、単元末で、学習前後の成長を実感できるように振り返りを掲載したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。
- 「内容の構成・排列、分量等」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として、第6学年の「人や他の動物の体」の單元における旭川市の旭山動物園等、全58か所で取り上げられている。
- 次に「啓林館」についてである。「各学年の『取扱内容』」については、「物質・エネルギー」と「生命・地球」の内容区分で調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「問題発見」、「予想・計画」、「観察・実験」、「考察・結論」、「新たな問題」の学習過程をとおして、理科の見方・考え方を働かせて、主体的に問題解決の過程を進められるよう工夫されている。具体的な単元等については、様式2に記載のとおりである。
- 「使用上の配慮等」については、第6学年の「ものが燃える仕組み」という単元で、その導入時にろうそくが燃えている様子の観察などの児童の豊かな表情の写真を掲載したり、全ての学年で「くらしとリンク」というコーナーを設け、身近な生活との関連を取り上げ、理科を学ぶ意義を実感できるようにしたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。また、教科書に問題解決の過程を線をつなぎ学習の流れに見通しをもたせたり、単元末で、学習の振り返りとして新しく学習した言葉を掲載したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。
- 「内容の構成・排列、分量等」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として、第4学年の「季節と生き物」の單元における富良野市のラベンダー等、全31か所で取り上げられている。
- 以上で理科の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。理科の調査研究報告について質問等はあるか。

- Q：学習指導要領理科の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」において、配慮することとして、天気・川・土地などの指導にあたっては、災害に関する基礎的な理解が図れるようにすることと示されているが、現在、防災や地震への意識へが高まっている中、自然災害については、どのような取扱いになっているか、併せて持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー資源に関する内容については、どのような取扱いになっているか、説明願う。
- A：防災関係については、災害をもたらす自然の仕組みの理解や、災害から身を守るためにどのような方策が考えられるかについて、理科の学習を通じて学ぶことができるように工夫されている。特に防災・減災教育に関わる取扱いについては、各者とも、第5学年での天気に関わる学習や流れる水の働き、川に関する学習、それから第6学年での土地のつくりと変化、地震や火山に関わる学習などで、学習内容と関連させて自然災害とその対策を扱うことで、児童が問題意識をもって防災や減災の取組を理解できるよう配慮されている。
- Q：第5学年では、雨による災害、第6学年では地震を取り上げて、防災・減災を取り扱っているが、とりわけ、北海道の地域については、どのように取り扱われているか、説明願う。
- A：北海道に関わる部分については、特に生命・地球の内容区分で災害について各者取り扱っており、特に、北海道の地域を扱っている部分については、「教育出版」では58か所、「東京書籍」では37か所、「啓林館」では31か所、「学校図書」では12か所、「大日本図書」では4か所となっている。各者に共通して多いのは、2000年の有珠山の噴火についてハザードマップとともに掲載したり、奥尻島の災害や2018年の胆振東部地震の災害の様子を写真とともに詳しく掲載したりしている。他にも、九州の雲仙普賢岳、東京三宅島の噴火、2011年の東日本大震災については、各者とも取り扱っている。
- Q：エネルギー資源に関する内容では、第6学年の電気と私たちの暮らしの中で取り上げられているが、各者の特色について、説明願う。
- A：エネルギー教育については、各者、第6学年「電気の利用」で取り上げられている。特に発電の仕方については、水力発電、火力発電、太陽光発電、風力発電を各者とも取り上げている。また、原子力発電については、「学校図書」と「啓林館」で取り上げられており、地熱発電については、「大日本図書」と「教育出版」で、潮流発電については、「大日本図書」で取り上げられている。また、プログラミング教育との関連において、各者とも第6学年の電気の単元で取扱いがある。電気の有効活用の観点でプログラミングの有用性について考える場面でプログラミング教育を位置付け、理科の学びを更に深めることができるようにしている。第6学年の電気の学習でプログラミングを扱うと同時に、「東京書籍」、「大日本図書」、「啓林館」では、第3学年から第5学年においてもプログラミング的思考を意識した内容を扱い、4年間の理科の学びの中で発達の段階に応じてプログラミング活動に触れられるように工夫している。
- Q：子どもたちの主体的で深い学びの実現を図るため、問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実について、各者どのような取扱いをしているのか説明願う。
- A：理科においては、各者とも、問題発見、解決的な学習の充実を図っている。各者とも導入部分で、子どもの「なぜ？」を引き出しやすい写真を精選し、日常生活とのつながりを大切に、理科への興味・関心を高め、理科を学ぶ意義・有用性が実感できるように配慮されている。

る。また、どの単元においても「事象との出会い」「問題」「予想・仮説」「計画」「実験・観察」「結果」「考察」「結論」の学習の過程を分かりやすく示している。これらの学習活動をとおして問題解決していく流れとなっており、「知識・技能」が身に付くように配慮されている。各者とも、単元末で「ふり返り」の場面を設定したり、実験・観察の操作方法を動画で確認したりするなどして、確実に知識・技能を定着させる工夫が見られる。「東京書籍」では、導入段階に「思い出そう」ということで既習事項の確認をしたり「レッツトライ」という自然事象に対する気付きを促したり、問題をつかもうということの問題を生み出す場面を設け、キャラクターを用いて考える際のポイントを示すなどして主体的な態度を重視した構成となっている。さらには単元の最初に理科ノートの2次元コードを配し、記録しながら学習できる工夫をしている。「大日本図書」では、単元の導入でできるようになりたいというねらいを明確にさせて、単元末でできるようになったというところと対応させて自己の学びの振り返りを強化している。特に導入での「問題を見つけよう」では「ここに注目」という場面を設け学習のポイントを把握できるようにしている。また全学年の巻頭に「理科の学び方」というコーナーを設定している。「学校図書」では、各学習段階において、2次元コードを配して学びをサポートしている。また「自分で」というマークで、一人で学習する際に効果的な場面、「みんなと」というマークで、協働的に学ぶ際に効果的な場面を示し、具体的に例示しながら効果的に学べる工夫をしている。「教育出版」では、単元導入時の「学習前の誰々さん」と単元末の「学習後の誰々さん」を対応させることで自分の成長が実感できる場面をつくりながら学べる工夫をしている。また「見方の鍵」と「考え方の鍵」というマークを付けて、そこに着目しながら学ぶように工夫されている。「啓林館」では、単元の導入時に「思い出そう」のコーナーを位置付けて、既習事項から気付きを促している。また、必要に応じて2次元コードで「計画サポート」や「考察サポート」といったコーナーを位置付けている。また、キャラクターの吹き出しに「見方・考え方マーカー」を付けて、そこに着目しながら学ぶように工夫している。

Q：児童の学習意欲を高める工夫について、コロナ禍の中で特徴的な工夫について説明願う。

A：「東京書籍」では、全学年の巻末に学びを深めるために、「理科の調べ方を身に付けよう」や、「コンピューターの使い方」といったものを位置付けて、デジタルコンテンツを紹介している。「大日本図書」では、2次元コードを各教科書のページ下部に用意し、そのページに関わるコンテンツに直接アクセスできるようになっており、学習の理解を深めたり広げたりすることができるようになっている。「学校図書」では、学習の各場面に2次元コードによるコンテンツを配置し、児童が必要な際に学習に役立つ動画やリンクを用意したり、学習前や学習後に2次元コードを経由して問題を解いたり、双方向的なコンテンツも用意しながら自学自習にも活用できるようにしている。「教育出版」では、巻末に「使い方・調べ方」といった写真や動画の取り方についてのコーナーを設けたり、タブレットやパソコンなどで動画を記録する方法を紹介したり、教科書の内容と関連のあるコンテンツを学びリンクというウェブサイトを用意したり、2次元コードからアクセスできるようにしている。「啓林館」では、場面と目的が分かるようなICT活用例や表現活動を豊かにするイラストデータを使用できるようにしており、インターネットでの調べ学習と端末とを効果的に活用でき

る場面を紹介し、併せて、その目的を記載したりしている。各者とも、デジタル化への対応も含めて、子どもたちが深く学ぶ、あるいは学びを広げる、そして指導の個別化や学習の個性化を図れるような配慮がなされている構成となっている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、理科の採択の審議に入る。

- ・理科については、自然に親しみ見通しをもって主体的に観察・実験などを行い、問題解決の能力や自然を愛する心情を育てることが求められていることから、事物・現象についての実感を伴ったり、科学的な見方や考え方をしたりすることのできる教科用図書が望ましいと考えている。その点から考えると、問題解決を重視したきめ細かな学習の進め方とそれに合わせてノートの取り方まで指導されている「教育出版」がよいのではないかと。また、質疑の中にあつたように、防災や地震、エネルギー資源については児童の防災等への意識は高まっていると考えており、その中で北海道に関する教材が多く掲載されていることが児童の学習意欲の向上につながると考え、理科の教科用図書は「教育出版」がよいのではないかと。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、理科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、理科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、生活科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 生活科小委員長の高田である。生活科の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。各学年の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。
 - ・「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」については、学校で見付けたことを他者に伝えたり、まちを探検したりする活動をとおして、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えるようになっている。
 - ・「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」については、動物を飼育して特徴を調べたり動くおもちゃを製作したりする活動をとおして、自分のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようになっている。
 - ・「自分自身の生活や成長に関する内容」については、自分が成長したことをまとめたり、感謝の気持をお世話になった人に伝えたりする活動をとおして、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自身をもって生活できるようになっている。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、各小单元において、評価規準を明示し、見通しをもたせるとともに、2年間にわたり、思いや願いを実現する登場人物を掲載したり、「学びを深める」コーナーを掲載したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。また、「かつどうべんりてちょう」を掲載し、多様な学習活動を行えるようになっている。
- 「内容の構成・配列」については、生活科の学びと中学年以降の学びのつながりをイメージできる「つながるひろがる」を位置付け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発

展的に学習できるような工夫がなされている。

- 「内容の分量」については、18の単元で構成され、総ページは252ページで、前回より4%減となっている。
- 「使用上の配慮事項」については、次のような工夫がなされている。
 - ・各単元の最初のページに単元で目指していく視点を写真と話し言葉で示したり、巻末に実物大の動植物を掲載した「いきものずかん」を示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。
 - ・全ての紙面に強い色彩の使用を避け、落ち着いた淡い色調を使用したり、掲載されている全ての文字をユニバーサルデザインフォントで統一したりするなど、使用上の便宜が図られている。
- 「その他」については、「みんなでつかうまちのきせつ」の単元で、札幌市の図書館の様子が掲載されている。
- 次に、「大日本図書」についてである。各学年の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。
 - ・「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」については、校庭を探検して絵に表したり、カードにまとめたりする活動をとおして、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えるようになっている。
 - ・「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」については、花や野菜を栽培し観察したり、楽しいおもちゃを製作したりする活動をとおして、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにしている。
 - ・「自分自身の生活や成長に関する内容」については、自分発見ブックを製作したり、これからの自分についてなりたいたいもの楽しみなことを書いたりする活動をとおして、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活するようになっている。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、単元において、学習課題を設定し見通しをもたせるとともに、「やってみようせいかつか」を掲載したり、「かくしゅうどうぐばこ」を掲載したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列」については、これまでの成長を振り返る活動を位置付け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。
- 「内容の分量」については、10の単元で構成され、総ページ数は282ページで、前回より約5%減となっている。
- 「使用上の配慮事項等」については、次のような工夫がなされている。
 - ・児童の思いや願いを挿絵や吹き出しで掲載したり、活動の視点を示唆するビンゴカードを掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。
 - ・単元の導入に見開きのダイナミックな写真を示したり、話型を示して児童自身の言葉を引き出す吹き出しを示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。
 - ・全ての紙面に色覚の特性によらず情報が読み取れる配色をしたり、見やすく読みやすいユ

ニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。

- 次に、「学校図書」についてである。各学年の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。

- ・「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」については、学校を探検して「はっけんかあど」を製作したり、インタビューカードを製作したりする活動をとおして、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えるようになっている。
- ・「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」については、アサガオを栽培し観察したり、おもちゃの動かし方を調べたりする活動をとおして、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくすようになっている。
- ・「自分自身の生活や成長に関する内容」については、「チャレンジカード」を製作したり、これからの私について作文を書いたりする活動をとおして、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活するようになっている。

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、単元において、学習課題を設定し見通しをもたせるとともに、多様な対話活動の様子を掲載したり、「学び方図かん」を掲載したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。

- 「内容の構成・排列」については、中学年への期待を高めるページを設けたり、単元の終わりに「もっと？」のページを設けたりして、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。

- 「内容の分量」については、14の単元で構成され、総ページ数は272ページで、前回より約6%増となっている。

- 「使用上の配慮事項等」については、次のような工夫がなされている。

- ・児童の活動など臨場感あふれる写真を掲載したり、手に入れやすい身近な素材を取り上げたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。
- ・全ての紙面で見やすく分かりやすい色使いにしたり、記号やマーク表示をできるだけ抑えて、シンプルで見やすい工夫をしたりするなど、使用上の便宜が図られている。

- 次に、「教育出版」についてである。各学年の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。

- ・「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」については、校庭を散策して気づきの質を高めたり、町探検計画や地図を作成したりする活動をとおして、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えるようになっている。
- ・「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」については、花を栽培したり、動くおもちゃを製作したりする活動をとおして、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようになっている。
- ・「自分自身の生活や成長に関する内容」については、「自分たんけんカード」を製作したり、3年生になることについて作文を書いたりする活動をとおして、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活できるようになっている。

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、単元において、学習課題を設定し見通しをもたせるとともに、育成する資質・能力を「サイコロ」のアイコンと

して掲載したり、「学びのポケット」を掲載したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。単元の構成を、「わくわくスイッチ」「発見ロード」などと配することで、発見したことなどを多様に表現し考える活動ができるようになっている。

- 「内容の構成・排列」については、コラム「はってん」で理科、社会科とのつながりを位置付け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。
- 「内容の分量」については、16の単元で構成され、総ページ数は260ページで、前回より約6%減となっている。
- 「使用上の配慮事項等」については、次のような工夫がなされている。
 - ・導入の「わくわくスイッチ」で動機付けしたり、日本各地の様子を写真で掲載したりするなど、児童が意欲的に学習に取り組めるような工夫がなされている。
 - ・全ての紙面に色覚等の特性を踏まえて判断しやすい配色をしたり、文字や記号を読みやすいよう写真やイラストに重ならないようにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。
- 「その他」については、上下巻合わせて、4か所において、北海道内の様子が掲載されている。そのうち、「まちが大すきたんけんたい」の単元では旭山動物園の様子が掲載されている。
- 次に、「光村図書」についてである。各学年の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。
 - ・「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」については、通学路の様子を調べたり、公共施設を探検したりする活動をとおして、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えるようになっている。
 - ・「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」については、花を育てたり、動くおもちゃを製作したりする活動をとおして、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようになっている。
 - ・「自分自身の生活や成長に関する内容」については、自分にできることを挑戦したり、自分の成長を発表したり、これからの自分についてまとめたりする活動をとおして、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活できるようにしている。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、新たな気付きを得るなどするため、単元を「導入」「展開」「振り返り」で構成し、活動や体験をとおして得た気付きを多様に表現できるようになっている。
- 「内容の構成・排列」については、中学年への期待も高めるコーナーを設けるなど、系統的、発展的な学習ができるような工夫がなされている。
- 「内容の分量」については、18の単元で構成され、総ページ数は264ページで、前回より約2%増となっている。
- 「使用上の配慮事項等」については、次のような工夫がなされている。
 - ・単元扉に学習対象と児童の写真、問い掛けを位置付けたり、表情や身振りなどから楽しさ真剣さが伝わる写真を掲載したりするなど、意欲を高め、主体的に学習できる工夫がなされている。
 - ・全ての紙面において文字と写真、写真と写真との区別を明確にしたり、色による識別に頼る

ことなく形や濃淡で識別できるようにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。

- 「その他」については、北海道の様子について、「ふゆを見つけよう」単元に見開きに3枚活用している。そのうち、旭川市のスノーキャンドルの様子が掲載されている。
- 次に、「啓林館」についてである。各学年の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。
 - ・「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」については、学校のまわりを歩いたり、発見したことを伝えたりする活動をとおして、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えるようになっている。
 - ・「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」については、花を育てて様子を観察したり、おもちゃを製作したりする活動をとおして、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようになっている。
 - ・「自分自身の生活や成長に関する内容」については、自分にできることに挑戦したり、チャレンジカードにまとめたり、感謝の手紙を書いたりする活動をとおして、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活するようになっている。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、単元において、学習課題を設定し見通しをもたせるとともに、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で構成し、体験をとおして気付いたことを多様に表現できるようになっている。
- 「内容の構成・排列」については、「3年生へのステップブック『みらいにむかって』」を位置付け、中学年以降の教育との接続を図るなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。
- 「内容の分量」については、18の単元で構成され、総ページ数は286ページで、前回より約1%減となっている。
- 「使用上の配慮事項等」については、次のような工夫がなされている。
 - ・「びっくりずかんLIVE」や「できるかなできたかな？」というコーナーを設け、児童の意欲を高め、主体的に取り組む工夫がなされている。
 - ・各単元においてわくわくの扉を掲載し、単元の導入を工夫したり、巻頭に学習過程「わくわく、いきいき、ぐんぐん」を示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。
 - ・全ての紙面に色覚特性への対応を示し、誰もが見やすく、読み間違いが少ないよう配慮したり、紙面の内容が判別しやすい配色・デザインを用いたりしている。
- 「その他」については、北海道に関する写真が、上下巻含め、5枚掲載されている。
- 以上で生活科の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。生活科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：1点目は、幼稚園や保育所等との接続に係る各者の工夫について、2点目は、目次によって月を限定して単元名を並べている教科書もあれば、番号でふっている教科書もあったが、月を限定するという点について調査委員会の中で意見が出たのかについて、説明願う。

A：幼稚園や保育所等との連携については、各者とも工夫されており、スタートカリキュラムについて、単元の最初にページが設けられている。「教育出版」では、「はじめのいっぽ」とい

うページがあり、それが、次の「わくわくどきどきしょうがっこう」と連続しており、スタートカリキュラムから最初の単元に入っていくようになっている。「東京書籍」では、スタートカリキュラムのページを小さめにつくり、特別なものとして位置付けをしている。

月ごとの単元構成については、各者工夫されており、小委員会でも議論があったところ。月ごとの枠はあった方が、大きな枠としてやりやすいのではないだろうかという論議があったが、月ごとの枠がないということは、地域や学校の実態に合わせて柔軟に単元を構成できるよさもあるということも議論された。

Q：動物や植物との関わりについて、各者の取り上げ方や工夫について説明願う。

A：動物や植物との関わりは各者とも取り扱っており、第2学年では、各者ともに、やさいの栽培、身近な動物や学校の周りで見付けた虫などを飼育することになっている。第1学年では、アサガオを育てるという活動は各者とも共通しているが、「東京書籍」では、虫を見付けるところから、発展として小動物に触れることについても扱っている。「学校図書」では、動物の小単元と虫の小単元に分かれている。「大日本図書」では、虫と生き物とが合わさりながら構成されている。「教育出版」では、身近な生き物として、虫から身近な動物・小動物へと構成されている。「光村図書」では、同じ単元の中で虫から動物・小動物を一緒に合わせて構成されている。大きく分けると、虫を中心に行っているもの、虫と小動物を分けているもの、1つの単元の中で扱っているものと、焦点をあてて活動を設定している。

会 長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、生活科の採択の審議に入る。

- ・「教育出版」は、大きな写真で分かりやすく表現されていて低学年でも学習に入っていけるような工夫がされていると考える。全体的に丁寧な作りで、子どもの実態に合った学びができると考える。「光村図書」は、多様な子どもの様子がイラストなどで表現されており、クラスの中の様々な特性をもった子どもも自己肯定感を高めるような表現が見られた。また、動物や植物の取り上げ方について、人と共に生きる仲間としてとらえるような設定がされており、好感をもてる内容となっていた。
- ・生活科は、この後、社会科や理科とつながっていくことを考えていくと、同じ教科書の方が、つながりがスムーズではないかと考える。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、生活科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、生活科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、音楽科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 音楽科小委員長の米津である。音楽科の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「教育出版」についてである。「音楽科の各学年の目標及び内容等に係る『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第1学年では、「学習マップ」で、学年全体の学習の流れを示したり、「ドレミとなかよし」では、「まな

びナビ」を示したりして、児童が見通しをもって主体的に学習できるよう工夫されている。また、児童が見通しをもって主体的に学習できるように、見開きごとに学習のねらいが設定されている。さらに、「ねいろとつよさ」では、対話的な学びを促すような学習の流れが示されており、考えを広げたり、深めたりする活動ができるように工夫されている。第1学年以外においても、同じように工夫されている。

○ 「その他」については、北海道地域に係る曲や写真・解説等について、第4学年に4か所、第5学年に2か所で取り上げられており、特に、歌唱の活動としては、第4学年の「伝えられてきた歌を楽しもう」でソーラン節が取り上げられている。また、鑑賞曲としてもソーラン節が取り上げられている。さらに、第5学年の「にっぽんのうたみんなのうた（赤とんぼ：中学校歌唱共通歌唱教材）」で、三木露風が、赤とんぼの詩をつくった際の背景の説明が掲載されている。ただし、上川・旭川に係る教材等については、取り上げられていない。

● 次に「教育芸術社」についてである。「音楽科の各学年の目標及び内容等に係る『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」について、第1学年では、「学習マップ」で、1年間の学びを俯瞰できるページを設けることにより、児童が見通しをもって主体的に学習できるよう工夫されている。また、児童が見通しをもって主体的に学習できるように、見開きごとに学習のねらいが設定されている。さらに、「がっきとなかよくなるう」の「きにいった音をみつけて、歌と一緒にならしましょう」では、対話的な学びの例が示されており、考えを広げたり、深めたりする活動ができるように工夫されている。第1学年以外においても、同じように主体的・対話的で深い学びの実現に向けて工夫されている。

○ 「その他」については、北海道地域に係る曲や写真・解説等について、第4学年に1か所、第5学年に7か所、第6学年に1か所で取り上げられており、特に、歌唱教材としては、第5学年の「みんなで楽しく」で半崎美子氏の作詞・作曲で「地球へ」が取り上げられている。また、鑑賞の活動として「音楽の特徴を感じ取りながら、日本の民謡をききましょう」では、ソーラン節が取り上げられている。さらに、第5学年の「オーケストラのひびきに親しみましょう」や第6学年の「いろいろな音のひびきを味わおう」の鑑賞の活動において、札幌交響楽団の写真が掲載されている。ただし、上川・旭川に係る教材等については、取り上げられていない。

● 以上で音楽科の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。音楽科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：学習指導要領音楽の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」において、各学年の歌唱教材については我が国や郷土の音楽に愛着がもてるように、共通教材のほか歌唱やわらべ歌、民謡など、日本の歌を取り上げることと示されているが、各者の共通教材の取り上げ方にどのような工夫がされているか、併せて、北海道の民謡である「ソーラン節」についてどのような工夫がされているか説明願う。

A：共通教材の取扱い方については、「教育出版」では、「日本の歌みんなの歌」という題材名で共通教材を扱っており、全体的に美しい絵や写真を扱っている。特に、第3学年の「富士山」第4学年の「さくらさくら」第5学年の「鯉のぼり」第6学年の「おぼろ月夜」については、見開きと折り込みページを使って雄大さや美しさがイメージしやすいように工夫されてい

る。「教育芸術社」では、「心の歌」という題材名で共通教材を扱っており、見開きや見開きの半分のページで、絵や写真を扱っている。特に、絵や写真の上に楽譜や歌詞、説明などが重なっており、写真等からのイメージのしやすさよりも、楽譜や歌詞、説明などの方が強調されている。

ソーラン節については、報告の中にも触れたが、「教育出版」については第4学年の「日本と世界の音楽」という題材において、「伝えられてきた歌を楽しもう」で、ソーラン節が2ページに渡り、歌唱の活動と鑑賞の活動として深く取り上げられている。「教育芸術社」では、第5学年の「音楽の特徴を感じ取りながら日本の民謡を聞きましょう」の中で、ソーラン節を鑑賞する活動として取り扱っている。

Q：子どもたちに多様な音楽を幅広く直接体験するための教材の数について、併せて、教科用図書での国歌「君が代」について、どのような扱い方がされているか、説明願う。

A：教材の数については、「教育出版」では、ページ数が増えており、その分、主体的・対話的で深い学びに関わる教材が増えているように思われる。

国歌の取扱いについては、「教育出版」では、最後のページではないページに見開きで示されており、各学年に国歌「君が代」の意味や日本各地のさざれ石の写真、そしてオリンピック、パラリンピックやワールドカップでも歌われていることが詳しく示されている。「教育芸術社」では、最後のページに見開きで示されており、各学年に国歌「君が代」の簡単な意味や第1学年及び第2学年はオリンピック、パラリンピックで歌われること、第3学年及び第4学年では、さざれ石のこと、第5学年及び第6学年では、歌ったり聞いたりする時のマナーが紹介されている。

Q：日本の音楽で歌以外に楽器等で工夫されている点について説明願う。

A：旋律楽器としての和楽器の扱いについては、「教育出版」では、第3学年及び第4学年で旋律楽器としてはリコーダーが多く取り扱われているが、琴については第4学年の「日本の音楽を訪ねて」で、琴の魅力として、「さくらさくら」の演奏について器楽の活動として取り扱っている。「教育芸術社」では、第3学年及び4学年で旋律楽器としてはリコーダーが多く取り扱われているが、琴については第4学年の「日本の音楽でつながろう」という題材の「チャレンジ琴を弾いてみよう」で、「さくらさくら」を器楽の活動として、さらには「日本の音階のよさを感じ取りながら旋律を作りましょう」で、「さくらさくら」の音階で旋律をつくるなど、音楽づくりの活動としても取り扱われている。

会 長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、音楽科の採択の審議に入る。

- ・子どもたちに音楽を幅広く体験できるよう工夫されている教科用図書が望ましいと考える。また、歌唱や合奏などの目標が子どもたちに分かりやすく示され、かつ、教材数も多く子どもたちが意欲的に取り組めるようになっている「教育出版」がよいのではないか。また、国歌「君が代」の取扱いについて、子どもたちに意識付けを働きかけるためにも教科書の中にしっかりと掲載されていることが大切であり、児童が主体的・対話的で深い学びができるよう、「まなびナビ」や「学べる音楽コーナー」を掲載するなど、教師が本時の目標を踏まえて授業を展開

できるよう構成し、児童が主体的に学習に取り組めるようになっている「教育出版」がよいのではないか。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、音楽科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、音楽科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、図画工作科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 図画工作科小委員長の宮寄である。図画工作科の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「日本文教出版」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第5、6学年の「自然を感じるすてきな場所で」という題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、自然の材料の形や色の特徴を考え、場所をどのように作りかえるかを交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が位置付けられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道や上川管内の関わりについて、北海道ゆかりのアーティストによる作品や、道内の美術館等に所蔵されている作品が、第5、6学年については4点取り上げられている。また、活動場所や方法、造形素材の一つとしての雪や氷については、第1、2学年で2つの題材、第5、6学年で1つの題材で取り上げられ、児童の見方や考え方を働かせるための多様な表現例として掲載されている。
- 次に、「開隆堂」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第3、4学年「みんなでつくろうねん土ランド」という題材において、主題を元に相手を意識しながら学習課題を設定し、表現活動の見通しをもつとともに、友達と協力して「どんなねん土ランドにしたいのか」を考えたり、友だちとの話し合いをとおして、アイデアを交流するなどの、考えを広げたり深めたりする活動が位置付けられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道や上川管内の関わりとして、北海道ゆかりのアーティストによる作品や、道内の美術館等に所蔵されている作品が、第1、2学年については2点、第3、4学年については2点、第5、6学年については1点取り上げられている。また、各学年に、児童の見方や考え方を働かせるための多様な資料が掲載されている。造形素材の一つとしての雪や氷については、第5、6学年で1つの題材で取り上げられ、児童の見方や考え方を働かせるための多様な表現方法として掲載されている。
- 以上で図画工作科の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。図画工作科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：カラーユニバーサルデザインに関わって、イラストや文字など、各者の工夫していることについて説明願う。

A：カラーユニバーサルデザインについては、「日本文教出版」では、視覚特性の有無に関わらず全ての児童が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色など、色にまつわるユニバーサルデザインに配慮して編集されている。題材名は見やすくかつ楽しく題材が分かるようデザインされている。「開隆堂」では、カラーユニバーサルデザインの観点から、全ての児童に対して教科書の内容が正しく伝わるように、紙面全体に識別しやすい配色や形状、イラストなどを基に配色、写真の配置などの工夫がされている。

Q：図画工作科においても、2次元コードが掲載されており、その活用方法について、各者の特色について、また、児童にとってどのような効果が期待できるか、あるいは指導する教員にとってどのような配慮がなされているかについて、説明願う。

A：ICTの活用については、「日本文教出版」及び「開隆堂」ともに2次元コードが各題材のページに記載されている。「日本文教出版」では、道具の使い方や教科書に掲載されていない子どもたちの作品表示、学習の流れが分かるような手順について、2次元コードをとおして見ることができるようになっている。個々の子どもたちが1人でも主体的学習できるように工夫されている。「開隆堂」では、道具、用具の扱い方、学習の流れが掲載されているが、教員にとって必要な情報も児童の教科書の2次元コードから読み取ることができ、一部題材によっては「振り返りシート」のようなPDFの画面にリンクされているものもあるなど、子どもにとって「これは何だろう」という戸惑いを感じてしまう部分がないとは言い切れない。ただし、教員にとっては、子どもと同じ教科書を開くことで、指導の際の参考になると考える。

Q：雪、氷に関わるものが各者とも掲載されているということだが、各者の工夫や特色について説明願う。

A：北海道との関わりということでは、各者とも、施設の紹介という形で、題材とは関わらない箇所での掲載となっている。ただし、「日本文教出版」では、素材としての雪・氷の表示が3題材、「開隆堂」では、1題材で、雪や氷が造形素材として紹介されており、北海道、上川の子どもたちが学習をする際に、粘土や絵の具と同様な意味で、雪や氷を扱うことができる単元の構成となっている。

会 長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、図画工作科の採択の審議に入る。

・報告や質疑応答を踏まえ、総合的に考えると、現行使用している「日本文教出版」がよいのではないか。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、図画工作科については、「日本文教出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、図画工作科については、「日本文教出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、家庭科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 家庭科小委員長の小林である。家庭科の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第5学年の「持続可能な社会へ 物やお金の使い方」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、SDGsを取り上げ、環境や資源への配慮を周りの人と交流するなど、グループでその課題を解決することをとおして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、「開隆堂」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第6学年の「持続可能な社会のために」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、SDGsを取り上げ、地域で行われているごみを減らすための工夫や取組を調べるなど、グループでその課題を解決することをとおして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として、東京書籍では、第5学年の「食べて元気！ ご飯とみそ汁」の題材において、北海道の郷土料理として「石狩なべ」、2次元コード資料にジンギスカン、ちゃんちゃん焼きが取り上げられている。また、第6学年の「冬を明るく暖かく」の題材において、冬の気候や生活の特徴を話し合う場面で2次元コードからの資料に札幌の月別気温と湿度が取り上げられている。「開隆堂」では、第5学年の「食べて元気」の題材において、だしの材料となるこんぶの産地として北海道が取り上げられ、「各地に伝わるみそ料理を調べよう」では、北海道のみそ料理として、ちゃんちゃん焼きが取り上げられている。また、第5学年の「いっしょに『ほっとタイム』」の題材では、地域のおやつとして北海道のいももちが取り上げられている。
- 以上で家庭科の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。家庭科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：1点目は、家庭科の学習で学んだことを実際の生活に生かすためにも学習の過程や成果の振り返りについて、各者はどのように扱っているか、2点目は、2次元コードによる教材の数や内容、特徴などについて、説明願う。

A：1点目の学習の振り返りや自己評価については、東京書籍では、全ての題材において「めあて」と「振り返ろう」が掲載されるなど、目標と評価の一体化が図られている。また、実技を伴う活動場面ごとに「できたかな」が配置され、自己評価がその都度できる仕組みになっている。学年末にまとめを振り返り学びの定着につながるような配列となっている。学習を振り返って自分の成長を実感できる「成長の記録」を見開きで掲載している。「開隆堂」で

は、学習のめあてと振り返りチェック項目、「生活に活かそう」コーナーが掲載されるなど、目標と評価の一体化が図られている。また、実技を伴う活動場面ごとに「できたかな」が配置され、自己評価がその都度できる仕組みになっている。学年末に生活の課題と実践例を記載することで学習後の実践的態度の育成につなげている。学習を振り返って自分の成長を実感できるように、題材ごとにチェック項目を掲載し、見開きではなくて題材ごとにその都度項目を設けている。各者とも題材ごとに振り返り自己評価ができるコーナーを設け、留意したいキーワードや技能が確認でき、学びの定着や実践につながるよう工夫されている。

2点目の2次元コードについては、「東京書籍」では、71か所で2次元コードが取り上げられている。「開隆堂」では、66カ所で2次元コードが取り上げられている。動画のコンテンツについては、「東京書籍」では、144コンテンツ、「開隆堂」では、166コンテンツが取り上げられている。ワークシートのコンテンツについては、「東京書籍」では38コンテンツ、「開隆堂」では、93コンテンツが取り上げられている。コンテンツの内容については、「東京書籍」では、2次元コードは、ステップ1、ステップ2、ステップ3と3ステップの内容で配列している。例えば、ステップ1では「トライシート」で意見を付箋に書いて整理することで、考えが深まり課題を発見することができるようコンテンツに入れている。ステップ2では、基礎基本をしっかり押さえる動画コンテンツと調べ学習に最適な図鑑を配置している。ステップ3では、ワークシートを配列し、タブレットで写真を貼り付けるなどして自分の学びを記録して友達同士でそれを共有したりするなどのまとめや振り返りの活動に活用できるような内容となっている。「開隆堂」では、動画コンテンツは、横流れの配列になっており、実習の最初から最後まで、左から右の方に向かって一連の横流れで構成されている教科書と同じような配列になっており、実習手順を自ら確認できるコンテンツとなっている。また「触って動かせる動画コンテンツ」があり、調理実習手順の並べ替えや、振り返り注文クイズ、調理手順時間配分のパズルのシミュレーションや、バラバラになっている給食に使われる食品の食品群分類を配置するコンテンツなどがある。活動コンテンツについては、調べたり話し合ったり考えたりしたことを記録できるワークシートを収録し、資料コンテンツでは、学習内容を補完する参考実習例、制作例、統計資料等のコンテンツを収録している。

Q：各者の全体的な教科書デザインの特徴について説明願う。

A：ユニバーサルデザインについて、「東京書籍」では、色覚の多様性に配慮し、配色やデザインについて外部の専門家による検証を行っている。字形を判別しやすく読み間違いにくいという特徴のユニバーサルデザインフォントを独自に開発している。視覚認知など、様々な発達特性に配慮し、本文と資料部分を区別できるよう罫線を使ったり、背景に色をつけたりする工夫をしている。「開隆堂」では、カラーバリアフリーの観点から弱視の児童に読み取りやすい配色の配慮がされている。ユニバーサルデザインのフォントを使用している。文の意味がつかみやすいよう1つの単語が行をまたがないよう工夫をしている。

Q：2年間の学習の中で、題材の配列や構成、系統性などについて、各者の工夫や配慮について説明願う。

A：児童が主体的学ぶための題材の配列、構成等については、「東京書籍」では、児童が意欲的に学習に取り組めるように、イラストや写真レイアウトが工夫された楽しい紙面になるよ

うに配慮されている。また、題材の見通しが立てられるよう学習の流れが掲載されており、キャラクターが吹き出しで学習のポイントを示唆している。「開隆堂」では、題材をとおして児童自らが生活の中から課題を見付けられるような記述や見通しをもって主体的に取り組めるような構成となっている。題材を象徴する写真やイラストを適切な場所に配置することにより、学習への興味・関心をもてるようにしている。

児童が、対話的に深く学ぶための題材の配列、構成等については、「東京書籍」では、全ての題材において各ステップに活動を設置し、目的意識をもって児童が自ら調べ、互いに交流し合いながら深める学習となるような配列、構成となっている。「開隆堂」では、自分自身の生活を見つめることを出発点として学習過程の3つのステップが繰り返される学びの仕組みや、児童同士で対話をしたり意見を交換し広げ深めたりするような学習活動を多く取り入れたりしている。

Q：外国籍の児童や帰国外国人児童が多くなっているが、各者の多様性への配慮について、説明願う。

A：多様性への配慮については、「東京書籍」では、幼児や高齢者、障害がある人々、外国から来た人との関わりをとおして共生の視点に気付くことができ、多様性の理解を促すような写真やイラスト、キャラクターを配置するなど配慮されている。「開隆堂」では、幼児や高齢者、様々な世代の人や性、障害の有無、国籍に関わらず多様性を認め合いながら、共生の視点に気付けるように写真、イラスト、キャラクターを配置するなど配慮されている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、家庭科の採択の審議に入る。

- ・各者工夫されているが、「東京書籍」は、第5学年で8つ、第6学年で7つ計15の題材で構成されているが、「開隆堂」は、第5学年で11、第6学年で9つ計20の題材で構成されている。地域や学校の特性に応じて、ユニットが細かく分かれている方がカリキュラムを組む自由度が高いと考える。また、「開隆堂」は、21名のキャリアインタビューが掲載されているなど、キャリア教育との関連が充実している。併せて、持続可能なSDGsとの関連について、「東京書籍」は15の題材のうち3つの題材でSDGsと関連させており、「開隆堂」は20の題材に対して14の題材でSDGsと関連付けている。加えて、家庭科では、特に実技を示す動画コンテンツが子ども主体的な学習に役立つと考えるが、「開隆堂」が、子どもが主体的に学ぶことに活用できる動画コンテンツが充実していると考える。よって、「開隆堂」がよいのではないかと。
- ・「東京書籍」は、成長の記録を記録できる1枚があり、初任段階の教員も指導しやすい工夫や学習の流れがあるが、子どもたちが主体的に学ぶことを考えると「開隆堂」は、物事のしくみがスモールステップで基礎基本の定着が図られやすい構成になっており、主体的・対話的で深い学びを実現するための3ステップは子どもも、教員も分かりやすいと考える。全ての子どもたちに分かりやすい工夫は「令和の日本型学校教育」のベースになっていると考える。よって、「開隆堂」がよいのではないかと。
- ・「開隆堂」は、例えば調理実習の流れに関してもプログラミング的な発想で考える内容が盛り込まれているなど、充実している。よって、「開隆堂」がよいのではないかと。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、家庭科については、「開隆堂」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、家庭科については、「開隆堂」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、保健について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 保健小委員長の石山である。保健の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第3、4学年の健康な生活の学習で、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「調べる・解決する」で2人の生活の仕方の事例を比較し、健康な生活の仕方について考え、「深める・伝える」で生活を見直した子どもがどのように変わるのかを考え話し合うなど、自分の考えを広げたり、深めたりする活動を取り入れている。また、第5、6学年のけがの防止の学習においては、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「調べる・解決する」で事例を基に危険を回避するための対策について考え、「深める・伝える」で交通事故を防ぐための環境整備の例から工夫されていることについて話し合うなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、「大日本図書」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第3、4学年の健康な生活の学習で、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「話し合おう」で1日の生活リズムと運動、食事、休養・睡眠との関わりについて話し合い、「活かそう」で自分の生活リズムを整えるために工夫したいことを書くなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。また、第5、6学年のけがの防止の学習では、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「考えよう」で事例を基に予測される危険や犯罪被害を防ぐための安全な行動について考え、「活かそう」で学習したことを活用して身近な場所や場面での危険を避ける安全な行動や環境づくりについて考えるなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、「大修館書店」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第3、4学年の体の発育・発達の学習で、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「考えよう」で自分の食品の摂り方のバランスについて資料を基に考え、「話し合おう」で例示された朝食のメニューに追加する一品を選び、その理由について話し合うなど、自分の考えを広げ

たり、深めたりする活動を取り入れている。また、第5、6学年の病気の予防の学習では、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「調べよう」で虫歯や歯周病の起こり方について資料を基に調べ、「話し合おう」で例示された2人の生活の仕方の違いに注目して、虫歯になりやすい生活の仕方について気付いたことを話し合うなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。

- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、上川管内との関わりのある内容として、第3、4学年の「よりよい成長のために」の単元で、栄養のバランスのよい給食の例として、旭川市の給食の写真が取り上げられている。
- 次に、「文教社」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第3、4学年の健康な生活の学習で、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「Mission 1」で部屋の明るさなどの事例を基に生活環境が体に及ぼす影響について考え、「Mission 2」で生活環境を整えるためにこれからの生活で心掛けることを記述するなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。また、第5、6学年の心の健康の学習では、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「Mission 1」で不安や悩みについて今までの経験を振り返ったり、資料を基に調べたりし、「Mission 2」で不安や悩みへの対処の方法を調べたり、相談方法について話し合ったりするなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、「光文書院」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第3、4学年の健康な生活の学習で、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「調べよう・考えよう」で手の汚れや手洗いの効果について資料を基に調べたり、考えたりし、「話し合おう」で衣服などを毎日清潔なものに取り替える理由について話し合うなど、自分の考えを広げたり、深めたりする活動を取り入れている。また、第5、6学年の病気の予防の学習では、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「調べよう」でむし歯や歯周病の起こり方について資料を基に調べ、「学んだことを生かそう」でむし歯を予防するためにこれから取り組みたいことを考え記述するなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、「学研」についてである。「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第3、4学年の健康な生活の学習で、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「理由について話し合おう」で部屋の明るさや換気など生活環境の大切さについて話し合い、「学びを生かす」で改善が必要な事例を基に教室や部屋の環境を整える方法を考え記述するなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。また、第5、6学年の心の健康の学習では、学習課題を設定し、児童に見通しをもたせるとともに、「意見を出し合おう」で不安や悩みを抱えたときに自分で行えそうな対処について資料を基に考え話し合い、「学びを生かす」で友達との話し合いで参考になった対処の方法を考え記述するなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、上川管内との関わりのある内容として、第5、6学年の「もっと！知りたい・調べたい」のコーナーで、喫煙や飲酒の防止キャンペーンとして、旭川市の取組が取り上げられている。
- 以上で保健の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。保健の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：性の多様性について、各者のLGBTQに係る特色や配慮等について説明願う。

A：LGBTQについては、「東京書籍」では、性の多様性に対応した本文記述やイラストキャプションいわゆる見出しの中で、あるいは養護教諭のコメントや資料が掲載されている。「大日本図書」では、体の発育・発達の学習で性の多様性に触れ、スクールカウンセラーのコメントや相談窓口の情報を掲載している。「大修館書店」では、登場人物は、男女の役割を固定したり、国籍や障害の有無などに基づく差別や偏見につながったりしないよう配慮されるとともに、相談窓口の情報が掲載されている。「文教社」では、個性を大切に社会的な取組について触れた本文記述やイラストキャプションが掲載されている。「光文書院」では、性の多様性に関わって、性自認や性的指向について触れた本文記述や相談窓口の情報を掲載している。「学研」では、図やイラストは、性や外国にルーツをもつ子どもなどの多様性に配慮されるとともに、性の多様性に対応した本文記述や相談窓口の情報を掲載している。

Q：1点目は、各者の北海道や上川に関する内容について、2点目は、各者のSDGsに係る取扱いについて説明願う。

A：1点目の北海道や上川との関わりのある内容については、上川管内については先ほど報告したとおりである。北海道に関わりのある内容については、「東京書籍」では、第3、4学年の資料で、スポーツ選手と食事の関係と「レバンガ北海道」の管理栄養士の話が掲載されている。さらに、第5、6学年の資料で、ユニバーサルデザインに関わり、札幌市の駅のホームドアの写真が掲載されている。また、第5、6学年の「喫煙の害と健康」で、札幌市の喫煙制限路上ポスターの写真が掲載されている。第5、6学年の「地域の保健活動」で、災害が起きたときの保健活動の例として、2018年北海道胆振東部地震の写真が掲載されている。「大日本図書」では、特に掲載はなかった。「大修館書店」では、先ほど説明した上川管内

に関わりのある内容のほかに、第3、4学年の「体の成長」で、女子スピードスケートの高木美帆選手の写真とインタビューが掲載されている。また、第5、6学年の「けがの防止」で、ユニバーサルデザインに関わり、札幌市のスロープの写真が掲載されている。また、第5、6学年の「地域の保健活動の取り組み」で、地域の保健活動に関わり、札幌市の薬局の写真が使われている。「文教社」では、第5、6学年の「交通事故の防止」で、全国の交通事故の死傷者数の北海道地図が掲載されている。「大日本図書」では、特に掲載はなかった。

「学研」では、先ほど説明した上川管内に関わりのある内容のほかに、第5、6学年の「喫煙の害」で、札幌市の喫煙制限区域の表示の写真が掲載されている。また、第5、6学年の「飲酒の害」で、北海道の飲酒運転防止ポスターの写真が掲載されている。第5、6学年の資料で、保健に関わる地域の施設で札幌市民防災センターの写真が掲載されている。

2点目のSDGsに係る取扱いについては、「東京書籍」では、各章の扉で、学習内容と関係するSDGsの目標を記載している。「大日本図書」では、巻末に保健との関わりをまとめているほか、関連する資料にはマークを付けている。「大修館書店」では、巻末に、SDGsの中の自然環境に関する資料を示している。「文教社」では、「思春期の心の変化」で、SDGsの「ジェンダー平等を実現しよう」に触れている。「光文書院」では、巻末に特集ページを掲載し、自分が取り組んでみたい課題を選択する活動を設定している。「学研」では、教科書の冒頭3ページを充て、保健の学習がSDGsと関係していることを示している。

Q：1点目は、新型コロナウイルス感染症をどのように取り扱っているか、2点目は、病気の予防、危険の予測、安全確保に係る各者の特色について、説明願う。

A：1点目の新型コロナウイルス感染症については、「東京書籍」では、資料のコーナーで、新型コロナウイルス感染症として新聞記事が記載されており、新しい感染症が起きた場合の情報への注意喚起や感染者への思いやりについても記載されている。「大日本図書」では、資料「もっと知りたい」で新型コロナウイルス感染症の発生と流行について記載されている。「大修館書店」では、資料の中で、新聞記事や正しい情報の判断や新しい感染症の問題点について記載されている。「文教社」では、発展「もっと考えよう課」というコーナーで、新型コロナウイルス感染症に対する3つの基本について記載されている。「光文書院」では、発展コーナーで、新型コロナウイルス感染症に対する3つの感染対策や、差別をなくすことについて記載されている。「学研」では、資料「ほけんのはこ」で、新型コロナウイルス感染症の予防について記載されている。

2点目の特徴的な内容については、「東京書籍」では、ステップ4「まとめる・生かす」の場面において、学習したことをまとめ、自分の生活や今後の学習に生かすための活動を取り入れている。「大日本図書」では、「活かそう」という場面で、自分の考えを記載し、仲間と広げたり深めたりする活動を取り入れている。「大修館書店」では、「生かそう・伝えよう」という場面で、この時間に学習したことを生かして考えたり、友達の考えと比較したりする活動を取り入れている。「文教社」では、「もう一步先の自分へ」という場面で、理解したことを基に、自分の生活の中で、これからの自分の実践へとつなげていく活動を取り入れている。「光文書院」では、「学んだことを活かそう」という場面で、学びで得たことから自分で評価し、新たな実践課題を設定する活動を取り入れている。「学研」では、「学びを生かす」

という場面で、1時間で学習したことを活用して新たな課題を解決する活動を取り入れている。

今回、特徴的なものとして、URLや2次元コードの掲載を各者行っており、学習者用デジタル教科書については、全者とも発行する予定となっている。URLや2次元コードについては、「東京書籍」では、第3、4学年で34か所、第5、6学年で68か所、2次元コードを掲載し、動画やシミュレーションを活用できるようにしている。「大日本図書」では、第3、4学年で13か所、第5、6学年28か所、2次元コードを掲載し、デジタルコンテンツを活用できるようにしている。「大修館書店」では、第3、4学年で24か所、第5、6学年で41か所、2次元コードを掲載し、動画やシミュレーション、ウェブクイズなどを活用できるようにしている。「文教社」では、第3、4学年で6か所、第5、6学年20か所、2次元コードを掲載し、動画やシミュレーションを活用できるようにしている。「光文書院」では、第3、4学年で14か所、第5、6学年で28か所、2次元コードを掲載し、動画や資料、ウェブサイトの情報を活用できるようにしている。「学研」では、第3、4学年で16か所、第5、6学年で25か所、2次元コードを掲載し、デジタルコンテンツを活用できるようにしている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、保健の採択の審議に入る。

- ・2次元コードやURLの活用において、「東京書籍」はコンテンツが多く、新型コロナウイルス感染症について、原因とか予防に加えて、感染者への思いやりという観点で記述している。また、「光文書院」は、新型コロナウイルス感染症に係る差別についても記述されている。LGBTQの取扱いについて、小学生が使用する教科書という観点から、「東京書籍」は、一番身近にいる養護教諭のコメントが掲載されており、子どもたちにとっては、身近に感じられるのではないかと考える。SDGsについても、「東京書籍」は、マークや項目だけでなく、SDGsの目標を記載している。よって、「東京書籍」がよいのではないか。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、保健については、「東京書籍」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、保健については、「東京書籍」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、道徳科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 道徳科小委員長の北山である。道徳科の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに「東京書籍」についてである。「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第3学年の内容項目「善悪の判断、自立、自由と責任」を扱う教材名「SL公園で」で、公園のルールを守らない友達に対して注意できなかった主人公について、教材の後に「問題を見つけて考えよう」で深く考える学習活動を設定している。主人公と同じような経験の有無を問う発問、主人公の気持ちを考える発問、女性が主人公に声をかけた理由を問う発問、そして将来の自分に応援メッセージを送る発問など、気づく、考える、広げる、深めるという流れに沿って、学習を進めることにより主体的・対話的で深い学びを実現できるようにしている。

- 次に、上川教育局管内の地域素材の扱いについては、第5学年の内容項目「希望と勇気、努力と強い意志」を扱う教材名「ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ」で、旭川市旭山動物園の廃園の危機からの脱却、そしてそのきっかけとなる「ペンギン館」建設について、坂東元園長の生き方、努力の足跡を紹介している。
- 次に「教育出版」についてである。「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第5学年の教材名「図書館はだれのもの」で、教材文が「私はみんなに何か言おうかどうか迷いました。」で終わり、その後の学習の手引き「問題を解決しよう」で、「何を言おうと迷っているのかを考える」「自分が私だったらどうするか話し合う」「だれもが気持ちよく図書館を利用するために大切なことを考える」「身の回りにあるきまりは何のためにつくられているのか考える」などのように、児童が自ら問題を見付け、主体的に考えることができるような発問で、思考を促している。
- 次に上川教育局管内の地域素材の扱いについては、第6学年の「北海道の名付親松浦武四郎」で蝦夷地を調査した松浦武四郎の功績について紹介したり、音威子府村の「北海道命名の地」の碑を写真で紹介したりしている。
- 次に、「光村図書」についてである。「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第1学年の教材文「にわのことり」の学習の手引きで、「2羽のことりが、お誕生日のお祝いでどんな話をしたと思いますか。ミソサザイとヤマガラになって演じてみましょう。」と発問し、その後の「考えるヒント」では、この役割演技について演じる側、見ている側がどのように活動に参加すればよいのか、さらに演じたあとで話し合うところまでその手順を具体的に示しており、考えを出し合い、深め合う学習ができるようにしている。
- 上川教育管内の地域素材に取り扱った教材はなかったが、第4学年の教材名「花咲山」で、「パヨカカムイ」というアイヌの人たちの昔話の絵本が紹介されている。
- 次に「日本文教出版」である。「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第4学年の内容項目「個性の伸長」を扱う教材「作ればいいしょ」で、導入段階で「自分の長所について考えましょう」と発問し、その後、教材のねらいに迫る発問として、「主人公はお母さんの言葉『作ればいいしょ』をどのように受け止めたか」、最後にこれからの生活に生かす発問として、「あなたは自分の長所を伸ばすためにどんなことに取り組んでいるかな」と、3つの発問で子どもたちが主体的に学ぶことができる構成になっている。
- 次に上川教育局管内の地域素材の扱いについては、第5学年「美しい夢ゆめぴりか」で、北海道の代表的なお米である「ゆめぴりか」について、上川農業試験場で開発されたことや苦労話が、伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する心をもつことを扱う教材として登場している。
- 次に「光文書院」である。「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第4学年の内容項目「相互理解、寛容」を扱う教材名「貝殻」で、新しい友達のことを理解するにはどうすればよいかを考えさせる教材として、教材文の「学習の手引き」に「新しい友達についてどんなことがその時分かったのか」「なぜ今度こそ仲良くなれると思ったのか」と2つの問いを設定している。この2つの問いかけによって、子どもが考えを深めたり広めたりすることで、問題の解決に取り組むことができるよう配慮している。
- 次に上川教育局管内の地域素材の扱いについては、第6学年の内容項目「自然愛護」を扱う

教材名「自然のゆりかご」で、上川教育局管内の明確な地名は示されていないが、北海道の原生林を見学し、エゾ松が1列に並んでいる立っている秘密を知ることとおして、自然の偉大さを感じる教材として掲載されているほか、本教材を含めた6つの北海道教材を採用している。

- 最後に「学研」である。「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第4学年の教材名「クラス対抗全校リレー」の学習の手引き「考えよう」で、児童が自己を見つめて考えるきっかけをきっかけになる問いを設置し、その後の「深めよう」では、正しいと思ったことを行うために必要なことを「つかむ」「探す」「生み出す」の3つのステップで学習を深められるようにしている。
- 次に上川教育局管内の地域素材の取扱いについては、第6学年の教材名「市民に愛される動物園を目指して」で、旭川市旭山動物園内で発生したエキノコックス感染症への対策のため、動物園を休園せざるを得なかった時の苦勞、「ペンギン館」や「アザラシ館」の建設前の取組など、旭川市旭山動物園前園長である小菅正夫さんの努力を紹介している。
- 以上で道徳科の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。道徳科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：1点目は、考え議論する道徳に向けた各者の話し合い活動の取扱いについて、2点目は、道徳で学んだことを実際の自分の生活、自分の生き方に生かすために、学習の過程や学んだことの振り返りについて、各者どのように扱っているか、説明願う。

A：考え議論する道徳の実現について、「光村図書」では、巻頭の第一教材に「話し合いのコツ」を示し、5月の取扱い教材として、お互いを大切にしながら、友達との関係を紹介する教材、9月には、考える準備体操として、対話の練習教材を配置しており、楽しみながら対話の力を育むという構成の工夫をしている。「教育出版」では、教材文の学習の手引き「考えよう」で1時間の授業で考え議論するための問いを2つ用意し、「深めよう」ではその問いを受けて、さらに自分の考えを深める問いを用意している。2つ、ないし3つの問いのうち、1つは「発表しましょう」や「話し合いをしましょう」と設定することによって、考え議論する道徳の実現を目指している。

次に、学習の振り返りについて、「学研」では、巻末に1年間の学び、自らの成長を振り返るページ「つなげようひろげよう」を設定し、子どもたちが1年間の学習で心に残ったこと、進級する自分に送るメッセージを書き込むようにしている。「光村図書」では、各学年とも1時間ごとの振り返りを記録する「学びの記録」を巻末に用意し、第1学年から第4学年までは自己評価用のシールを貼り、第5学年及び第6学年では、一言感想欄に記述する方法で記録を蓄積するようにしている。「教育出版」では、各教材の最後に「学びチェック欄」を設け、「しっかり考えられた」「新しく気付いたことがあった」「大切にしたいことが分かった」の3項目について、言葉やマークを使って短時間で自己評価ができるようにしている。

「光文書院」では、各学年の巻末に自分の学びを見つめる自己評価ができる「学びの足あと」を設定し、道徳科の学習1時間ごとに心の矢印を記録するとともに、なりたい自分、道徳の授業で学んだことをまとめる欄を設定しているほか、通常のノートの使い方を紹介し、学んだことをまとめる見本を掲載している。

Q：1点目は、子どもが見て分かりやすいよう、各者のデザインの工夫について、2点目は、デジタルコンテンツを利用した2次元コード等の掲載状況や工夫について、説明願う。

A：デザインの工夫については、調査研究を行っていないが、各者ともに、表紙に興味・関心を引くようなイラストを用いたり、写真やイラストを多く掲載したりして、読んでみたくなる工夫をしている。

2次元コードについては、教材のタイトルの下に2次元コードを掲載している発行者が多く、朗読や動画、紙芝居のようなものを見られるような工夫がされている。

Q：人権侵害やいじめ問題への対応について、各者どのように取り扱っているか説明願う。

A：各者ともに現代的な課題として、特に情報モラルや著作権に関する内容の取扱いが多くなっている。いじめ問題についての取扱いも充実しており、いじめ問題と人権教育や多様性を関連させながら、命の尊さを学ばせる教材が多く掲載されている。

Q：児童が自分事として考えることができる工夫や配慮について、説明願う。

A：道徳の学び方については、各者とも、各学年の冒頭や最初の教材の中で示し、教材文を基にして考える場面、自分の考えをまとめて話し合う場面、自分を見つめて深めていく場面と、考えを深めていく各段階で、自分を見つめ自分で考えるという学び方ができるよう工夫するとともに、最終的には、教材を離れて自分事として考えることができるよう工夫されている。

Q：問題解決的な学習について、各者どのような工夫や特色があるか、説明願う。

A：問題解決的な学習について、「教育出版」では、第2学年の内容項目「友情と信頼」に関する教材名「みほちゃんとなりのせきのますだくん」の教材文の最後が「ぼくどうしたらいいんだろう」で終わり、その後の「学習の手引き」で問題を解決しようと問いかけ、登場人物2人のそれぞれの問題は何かを見付け、解決方法を考え、考えたことを自分の生活に生かすという問題解決的な学習を、段階を追って進められるように工夫している。「教育出版」では、2つないし4つ程度の問題解決的な教材を掲載している。「東京書籍」では、第6学年の教材名「修学旅行の夜」で、何が問題なのかに気付くところから学習活動を進めるなど、道徳的価値に根ざした問題を見付け、多角的・多面的に話し合う学習の指導過程を工夫している。「日本文教出版」では、問題解決的な学習方法を用いると効果的であると考えられる教材の学習の手引きに「ぐっと深める」というタイトルで問題をつかむ活動、その後で考える活動を促す発問を示している。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、道徳科の採択の審議に入る。

- ・各者ともに今日的な課題を踏まえた内容や構成となっている。道徳科の授業における「スタートカリキュラム」として、「道徳は何を学ぶところなのか」「どのように学ぶところなのか」について、子どもや教師がイメージして共有することが大事だと考えるが、各者とも教科書の冒頭部分等で、オリエンテーションとして道徳科の学び方が示されているが、「光村図書」は、第1教材と第2教材の中に位置付けて丁寧に扱っていると考え。また、考え議論する道徳を実現するための手立てとして、各者とも、話し合い活動を取り扱っているが、「光村図書」は、

みんなで気持ちよく話し合うためのコツとして、多くの紙面を割くとともに、教材の中で話し合う活動が位置付けられており、話し合い活動を重視し、協働的な学びを大事にした構成となっていると考える。加えて、主体的・対話的で深い学びのための学習の振り返りについて、各者ともに、ポートフォリオ的に巻末に振り返りができるページが用意されているが、学年末に振り返りをする構成や、学期ごとに心に残った教材として振り返りをする構成、全ての教材で振り返りをする構成、別冊道徳ノートとして振り返りをする構成と各者特徴が見られるが、「光村図書」は、1時間ごとに学習したことをポートフォリオ的に記録に残し、後から丁寧に振り返ることができる構成であることや低、中学年では学びの記録シールを用意するなど、学年に応じた振り返りの手立てが工夫されていると考える。よって、「光村図書」がよいのではないかと。

- ・「光村図書」はイラストとか漫画など、多様な資料とキャラクターの働きかけなどが優れており、発問については、内容理解的な発問が優れていると考える。「教育出版」は、発問が、内容理解、道徳的価値理解、自分事として考えさせる発問と、3つの発問構成になっていることから、道徳的価値を主体的に自覚するという学習に結び付くのではないかと考えている。よって、「教育出版」がよいのではないかと。
- ・道徳科に関しては、前回採択の議論において、学びの記録については、可能な限り細かくその都度行い、その積み重ねの中で、どのように成長したのか、自分が変わったのかといった気付きが大切だと議論になったが、その都度、1時間ごとに記録していくポートフォリオの中で、児童自ら気が付くといったことが大切だと考える。総合的に考えた時に、「光村図書」がよいのではないかと。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、道徳科については、「光村図書」がふさわしいと考えるが、いかがか。（異議なし）

それでは、道徳科については、「光村図書」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、外国語について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 外国語小委員長の越野である。外国語の調査結果について、報告申し上げる。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、報告書に記載のとおりである。
- はじめに「東京書籍」についてである。
- 目標を実現するために、本UNITあるいは2年間をとおしてどのように学ぶかということが明確に位置付けられており、「Our Goal」「Your Plan」「Your Goal」といった流れで、ゴールを見据えたスモールステップで単元が構成されている。
- 特徴としては、続きが知りたくなる魅力的なストーリーというテーマが貫かれており、住んでいる地域、日本について、英語を使うことにより深く学ぶことができるという特徴がある。第5学年では、日本とつながりのある私たち、自分のことを伝えよう、身近な地域のこと、日本紹介、第6学年では、世界とのつながり、そして世界と地球、そして夢という形で構成されている。
- 考えるということについては、「何々を考えよう」をUNITごとに位置付けている。

- 振り返りについては、テーマごとの振り返りをしっかり記述させるようにしている。
- 上川管内の地域の状況については、第6学年で、ボルネオの環境問題が取り扱われており、旭山動物園が貢献しているという内容が取り扱われている。
- 次に「開隆堂」についてである。
- 英語を使いながら学ぶ、学びながら使うなど、どのように学ぶかということが明確に示されている。ゴールを見据えたスモールステップで4技能5領域を身に付けられるようなつくりになっている。
- 特徴としては、フォローアップ、レッツトライ、レッツトライアクティビティーと、言語活動が充実しており、児童と同世代の子どもの様子をストーリー仕立てで展開し、互いのことをよく知る、自分の地域について知る、相手のことを知る、思い出そして自分の夢と言語活動が展開され、インタビュー活動も設定されており、自己選択の場が設定されている。
- 巻末には、「Can-Doリスト」が設定されており、1年間を見通して頑張ったこと、次に頑張りたいことを1枚の「Can-Doリスト」で記載するよう工夫されている。
- 「内容の構成、排列」については、記載のとおりである。
- 次に、「三省堂」についてである。
- 4技能5領域について、「思い描く」「出会う」「慣れ親しむ」「伝え合う」「表現する」という形でゴールに向かって構成され、「Hop」＝「思い描く」、「Step」＝「出会う」、そして「Jump」＝「表現する」といった形でスモールステップの構成になっている。
- 特徴としては、様々な国から来た子たちと友達になる感覚で、第5学年では、自分事、身近な人、地域、第6学年では、日本、思い出、将来について自己表現ができるような構成になっている。単元の最後には、「考えよう」、「それはなぜだろう」が位置付けられ、「全体の振り返り」、「工夫」、「まねしたいこと」を記述する欄が設けられている。
- 「内容の構成、排列」については、記載のとおりである。
- 次に、「教育出版」についてである。
- 「ゴール」「Think」「振り返り」という形で、年間をとおして、どのように学んでいくかが明確に示され、「Final Activity」に向けて言語活動が設定され、最後の自己表現に結びついている。
- 特徴としては、言葉は人をつなぐものとして、第5学年では、自分、他者、第6学年では、他者、まち、日本、世界と自己表現ができるように設定されている。また、冒頭で「考える」という欄が設定され、自分の考えを明記し、最後に振り返りではどのようなことができたかということをも自分で自己評価できる設定になっている。
- 上川管内の地域の状況につきましては、イラストや写真で富良野のラベンダー畑、旭山動物園など管内の26か所が記載されている。
- 次に、「光村図書」についてである。
- インプットから少しずつアウトプットへという流れで、どのように学ぶかが示され、アクティビティーに向けてスモールステップで、「Step 1、2」そして「Jump」で4技能5領域を満遍なく身に付けられるような設定になっている。
- 特徴としては、世界に引き込む、続きを見たくなるアニメーションが充実した教科書になっ

ており、第5学年では自分、地域、第6学年では日本、世界、将来という自己表現ができるように設定されている。

- 振り返りでは、UNITごとに重点、領域の振り返り、工夫、次に生かしたいことを自由記述するとともに、「All About」として、年間をとおしてどのようなことが作品としてできるのか、ポートフォリオ的な振り返りも設定されている。
- 「内容の構成、排列」については、記載のとおりである。
- 次に、「啓林館」についてである。
- スモールステップであるパイラルでUNITのゴールに向かうという流れで、学びが展開されるということが、扉、「Step 1、2」「Look Back」という形で示されている。
- 特徴としては、話す楽しさを大切にという方針の下、第5学年では、身近なことや知っていること、第6学年では、身の回りのことをもう少し詳しく、そして身の回りから少し離れたことを知るという言語活動が展開され、自己表現ができるように工夫されている。
- 振り返りについては、「できたかなパラメータ」「Look Back」でできたことをチェックし、学んだことをどう使うかを考えさせている。
- 「内容の構成、排列」については、記載のとおりである。
- 以上で外国語の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。外国語の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：1点目は、グローバル化といわれて久しい中、英語や外国人に対する苦手意識を払拭するということが強く言われ、特に中学校段階での英語嫌いを生まないためにも、小学校段階での外国語活動や外国語が大切だと考えるが、中学校にいかにつなげていくのか、小中接続の観点から、特徴について、2点目は、英語を、世界中のより多くの人たちと一番多くつながるコミュニケーションツールとして捉えたときの各者の特徴や相違点について、説明願う。

A：1点目の中学校との接続については、ストーリー仕立てになっているということが、中学校の学習イメージにつながると考え、このような授業イメージが中学校にも引き継がれることで、子どもの精神的な負担感は軽減されると考える。小学校は内容重視で表現活動が設定されているので、小学校の学習を受けて、中学校でも自分の考えを表現する学習活動が充実することで、自分で自信をもって英語で発表することにつながるのではないかと考える。

2点目のコミュニケーションツールとしての英語については、各者ともに、児童と同年代を取り上げているケースが多くあり、世界中の子どもたちが、英語をとおしてコミュニケーションを図ることができることについて、各者とも重視して取り扱っていると考え。「三省堂」では、いろいろな国の子どもたちの実際の声を映像化して、それを交流するというような内容になっている。

Q：2次元コードについて、各者の取扱いや工夫について、説明願う。

A：2次元コードの取扱いや工夫について、各者とも1つの2次元コードから、総合的なウェブページにアクセスできるようになっている。「教育出版」と「啓林館」では、複数ページの中で2次元コードが配置されており、「啓林館」では、全てのタスクに2次元コードが掲載され、ダイレクトに関連の動画なり音声なりにアクセスできるようになっている。「教育出版」では、デジタル教科書と併用するような形で2次元コードが使われており、デジタル教

科書を使いながら学習を進めていくという特徴が見られた。

Q：各者のイラストやキャラクターの使用法の工夫や特色について、説明願う。

A：イラストやキャラクターの使用法の工夫や特色について、各者とも、いろいろな国から集まったり、車いすの子がいたりという設定で、多様性を重視し、イラストを工夫している。

Q：北海道や上川管内に関わりのある内容については、「教育出版」は他者と比較して多いが、小委員会では話題になったことはあるか。

A：小委員会では、北海道を大事にしている印象があるという話題があった。

会 長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、外国語の採択の審議に入る。

- ・小中接続という観点から、今年は、小学校教科用図書の採択で、来年、中学校教科用図書の採択があり、関連性について、議論することも考えられる。現在使用している教科書が子ども達にとってなじみやすいつくりになっていると考えるので、「東京書籍」がよいのではないか。
- ・ALTや教育アドバイザーと話をした中で、スモールステップやスモールトークをいかにリピートしていくかが大切だということが話題となり、子どもたちが学校での学習以外のところでも使いやすい教科書であることが重要だと考える。「東京書籍」は、構成が効果的であり、中学校との接続も考えると、「東京書籍」がよいのではないか。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、外国語については、「東京書籍」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、外国語については、「東京書籍」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、特別支援教育で使用する図書について、報告の後、審議、採択を行うが、特別支援教育については、道で採択された新規図書9冊についての研究調査結果の報告を受け、一括して採択とするがよいか。(意義なし)

それでは、特別支援教育で使用する図書について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 特別支援教育小委員長の〇〇である。特別支援教育で使用する外国語の調査結果について、報告申し上げる。

● はじめに、教育画劇国語「ふわふわちゃんおでかけこんにちは」についてである。特に、登場人物が動物に挨拶する際の「こんにちは…」の続きがページをめくった先に表示されており、子どもが次のページを楽しみにしたり、動物の鳴き声などを模倣したりできるように構成されている。

○ 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

● BL出版国語「手と手をつないで」についてである。特に、「手」以外は全てひらがなで子どもが内容を理解しやすいようにできており、コラージュで作られた色彩豊かな美しい挿絵で子どもが興味をもつことができるよう工夫されている。

○ 「内容の程度・排列、分量等使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 金の星社社会「みんなのきもちが分かるかな？思いやりの絵本」についてである。特に、目次のページに、「おもいやり」のハートのイラストの説明が分かりやすく書かれており、何がおもいやりで、何がそうでないのか、目で見て分かるため見通しをもって読み進めることができる。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 金の星社算数・数学「音の出るとけいえほんいまなんじ？」についてである。特に、時間の単位について理解させるためにアナログ時計を操作させるようにできている。また、時刻当てクイズが設定されており、子どもが興味・関心をもって取り組むように構成されている。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 学研プラス算数・数学「さわって学べる算数図鑑」についてである。仕掛け絵本で、主体的に学べるよう、目で見て分かる工夫、触って分かる工夫がなされている。イラストで分かりやすく、立体はその場で組み立てることができる。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 金の星社音楽「うたってたたこう！わくわくリズムあそびどうようえほん」についてである。童謡が14曲収録されており、それぞれ歌入りやカラオケで歌唱することができるようになっている。また、カスタネットや鈴の音などのボタンを操作することにより、子どもに興味・関心をもたせ、楽しく主体的に学習できるよう工夫されている。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 朝日新聞出版音楽「てあそびうた&ゆびあそびゲーム」についてである。英語の歌、手遊び、指遊びうたなどいろいろなジャンルの曲が30曲掲載されており、教師と子ども、あるいは親子と一緒に活動することができる。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 大日本絵画音楽「おとがなるしかけえほんはじめてのオーケストラ」についてである。様々な楽器が重なり合って指揮者が指示をすることでオーケストラが出来上がる、という流れを電子音と動画サイトによって振り返ることができるよう工夫されている。
- 「内容の程度・排列、分量等使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 講談社技術家庭「親子でたのしんで、驚くほど身につく！こどもせいかつ百科」についてである。全て簡潔なイラストで順番に示されており、文字が読めなくても目で見て分かるため、見通しをもって読み進めることができる。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 以上で特別支援教育で使用する図書の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。特別支援教育で使用する図書の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：2次元コードの活用について、工夫されている図書や評価が高かった図書について、説明願う。

A：2次元コードについては、「おとがなるしかけえほんはじめてのオーケストラ」で2次元コードがついている。「ハンガリー舞曲」の第5番について、いろいろな楽器が重なって一つの

音楽になるという過程が詳しく紹介されており、ボタンを押すことによって、その過程が分かるようになっている。2次元コードを読み取ると、オーケストラで演奏されているものが動画でみることができるようになっている。2次元コードについては大変素晴らしいと考えるが、小委員会では、他の曲についても見るができるといいという意見があった。調査した9冊の中で、小委員会で素晴らしいと話題になったものは、学研プラス算数・数学「さわって学べる算数図鑑」であった。仕掛け絵本でいろいろな算数の考え方や図形が目で見ても大変分かりやすく工夫されており、どの子どもにとっても大変分かりやすくできているのではないかとこの意見があった。

Q：金の星社社会「みんなのきもちが分かるかな？思いやりの絵本」の出版社について、調査報告書では「Willこども知育研究所」となっていたが、どちらの出版社名が正しいか。

A：出版社は「金の星社」が正しい。調査報告書を修正する。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、特別支援教育で使用する図書の採択の審議に入る。

報告のあった特別支援の新規図書9冊については、一括採択してよろしいか。(異議なし)

それでは、特別支援教育で使用する新規図書については、9冊の全てを採択することと決定する。

会長 以上で、令和6年度から使用する第6採択地区教科用図書の採択を終了する。